愛國婦人

明治四十五年 元旦號

愛國婦人會機關

●特別附錄(小池掌侍謹書 皇后宮御歌を特別附錄として本號に添付す)

新年の詞

鷄の八聲にほの〲としらみゆく東雲の空は、はやくも明治の四十五年を告ぐるなり。世はおしなべて進みゆくものとは聞けど我が大御國のごとく、目に見えて著しく開け榮ゆる國、世界いつこにか求め得べき封建といひ、大名といひ、上下肩衣の禮者を見しことは昨日のやうなるに、今は世界の强國に列し、大君の稜威いたらぬ隅なく、文化は燦然として花のごとく、吹風も枝をならさずして、民草大御惠の露に起き臥すうしろやすさは實に天が下に稀なる進歩といふべし

我愛國婦人會は、一視同仁なる　兩陛下の御庇護をかふむりて、その大御心を心とし、博愛慈仁を主とし　起りしもの、その爲しゝところ、未だ思ふことのかず〲を達せずといへとも、着々として國家の進運に伴ひ、徐徐としてその目的を達し得つゝあるは、自ら信ずるところにして、聊か國家に貢獻する事あるを疑はざるなり。

ことに今より二歳以前、英京倫敦に於て、本會と殆んど同一目的を以て「英國婦人愛國會なるもの成立し、勃爾牙利國に於ても、一昨年十二月、同國皇后陛下の保護のもとに、愛國婦人會の組織あり　今復伊太利國に於ても、我會に倣ひ婦人團體を組織せんとて、同國大使館員を本會本部に派遣し、本會の組織、事業其他の狀況をも調査せられたれば　本會は種々の事項を參考に供し充分の便宜を與へたり。この如きは、獨り本會の名譽のみに止まらざるべし

寒極まりて春到り、歳終りて更に歳來る、天然は眞を以て四時をあやまたず、我等また天地の眞に則り、その主旨とする博愛慈仁の眞を以て歳をおくり、こゝにまた新に歳をむかへぬ。梅に鳴く鶯は、去年と同じきことをくりかへす、我等また同じき目的のもとに進みゆくものいつとても同じきことをくりかへせども、事業は花の散りて跡なきがごとくならず、鳥の鳴きてその跡靜なるがごときものにあらず、一日の業は一日を印象し、二日の業は二日を印象す、わが會の事業已に數年にわたり、いまより後、年と共に積みゆき進みゆくにつれては、一年は一年よりまた見るべきことの增さゞらむや、さては月ごとに年ごとに進みゆく、大御國の榮えと共に、また榮えゆかざるべけむや。大稜威の光りにつれて、進みゆかざらむや。こゝに松竹のかげさす若水汲み上げ、手洗ひにそゝぎ、神を拜み君を祝ひ、きよきあかき心に、ます〲我會の發展をいのり、博愛慈仁の洽く及ばむことを庶幾ふ。

跡見花溪筆

●本紙(附錄共)二十四ページ

本號主要目次

▼妻たり母たる修養……金子子爵
▼國家と主婦……一木博士
▼女一代の春……三輪田眞佐子
▼感じたるまゝに……鍋島侯爵夫人
▼妻として有つべき德……下田歌子
▼日本文學と歌……芳賀博士
▼先づ三省せよ……山脇房子
▼貞女烈婦とは如何……三上博士
▼日本の母と西洋の母……下村宏
▼鼠ナポレオンを苦ましむ……宮島博士
▼歐亞に於ける婦人會の近況……幣原博士
▼杉立出世物語……細川風谷
▼應募和歌俳句

創刊明治廿五年三月廿七日●明治廿五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回(一日十五日)發行●納本期日廿九日(本號に限り)
●發行所東京麹町區牛ヶ淵公園愛國婦人發行所●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯人竹内貞三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

妻たり母たる婦人の修養（上）

樞密院顧問官子爵　金子堅太郎

▲女子天賦の責任

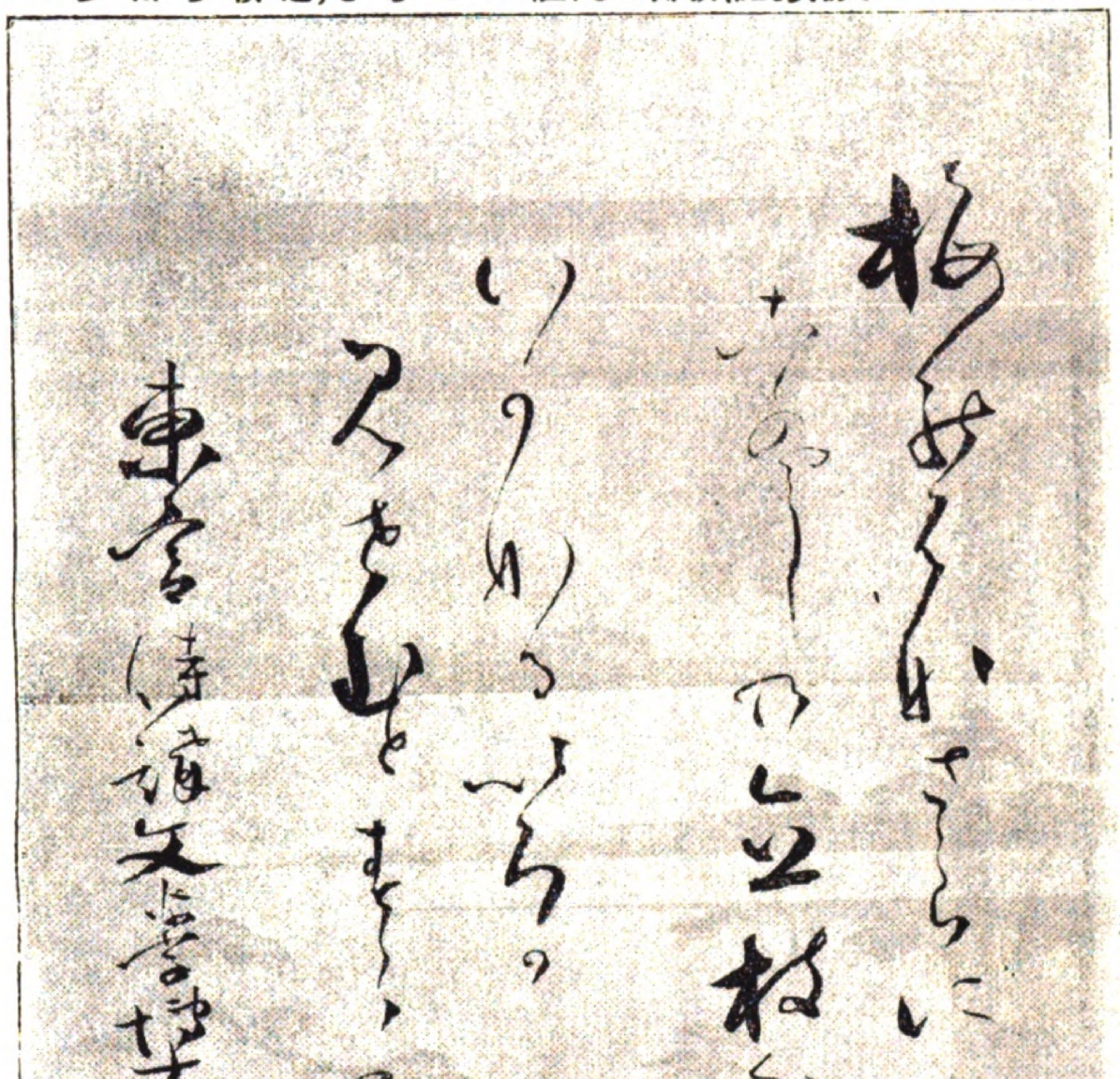
妻たり母たる婦人の修養といふことは頗る範圍の廣い問題であつて、短い時間では到底說き盡されぬ事柄であるが、母たる思想は先づ妻たる思想から流れ込むのが順序であらう。

抑も女子の天賦の責任といふものは何であるかと云ふと、夫は婦人が相當の配遇者を得て、人類の繼續即ち子孫の繁殖を圖る事であつて、一家の系統を絶さぬやうにし、家門を繁昌せしめ、延ひては國民種族の繁榮を來すことに努めるのが婦人天與の使命であるし、又婦人としての最大義務だと思ふのである。

此の意味からして、女子の獨身生活は婦人としての天職に反くものである。然るに、世が進歩するに連れて敎育を受ける婦人が次第に增加するのであるが、其の敎育が婦人の天職に適ひ、苟も之に反する事の無いやうに努むるのが敎育家たるものゝ責任である。

▲歐米の敎育家は覺め、我國の敎育家は眠る

ところで我國の現時の婦人敎育の有樣を觀れば、裁縫割烹等の事は別問題として、其の方針に於ても課目に於ても、亦敎育の程度に於ても多く男子と選ぶ處が無く、男女共に殆んど同一方針の下に同一の敎育が施されつゝあるのである。之は元來我國の敎育制度は維新の當初歐米の敎育制度を輸入し襲踏したものであつて、歐米の當時の敎育制度が斯くの如くであつたから、勢ひ我國に於ても斯く爲つた譯であるが、今日の歐米諸國では獨り敎育家と云はず、政治家も學者も具眼の士は皆從來の敎育方針の誤謬であつた事を悟り、悉く其の非を鳴らし之が改良を叫んで居る。其の誤謬は何であるかと云ふと、矢張り盛んに男女同一の敎育を施し、婦人の天職に適ふ敎育を疎にした結果として、國家又は社會の上に種々の弊害が暴露して來たことである。即ち、婦人と雖も必らず配遇を求め男子に賴らなければならぬと云ふ道理は無い、獨立獨歩でやつて行けるものであると云ふやうな說も起り、或は政府の雇員となつたり、或は銀行會社等の女事務員等となつて男子と同樣の仕事を爲る事となり甚だしきに至つては代言人となるとか、若しくは婦人も亦市會議員となるとか、國家の政治上に參與するの權利を有するものであるからとて、所謂婦人參政權運動の如きが起り、更らに突飛な婦人は、身に軍服を着け劍を帶びて馬上に跨り、婦人も亦軍人たり得るものである事を示すと云ふやうな狂的な振舞までも爲るやうになつた。かくして歐米では從來の敎育制度の誤謬であつたことが益々明に認められた爲めに、大に之が改良を施しつゝあるので、現今では、婦人には必ず婦人としての天職を全ふす爲めに肝要なる特種の敎育を施さねばならぬといふことが一般の定說となり、敎育方針がこゝに一變したのである。



東宮侍講文學博士本居豐頴詠書

▲何時其の誤を發見すべき

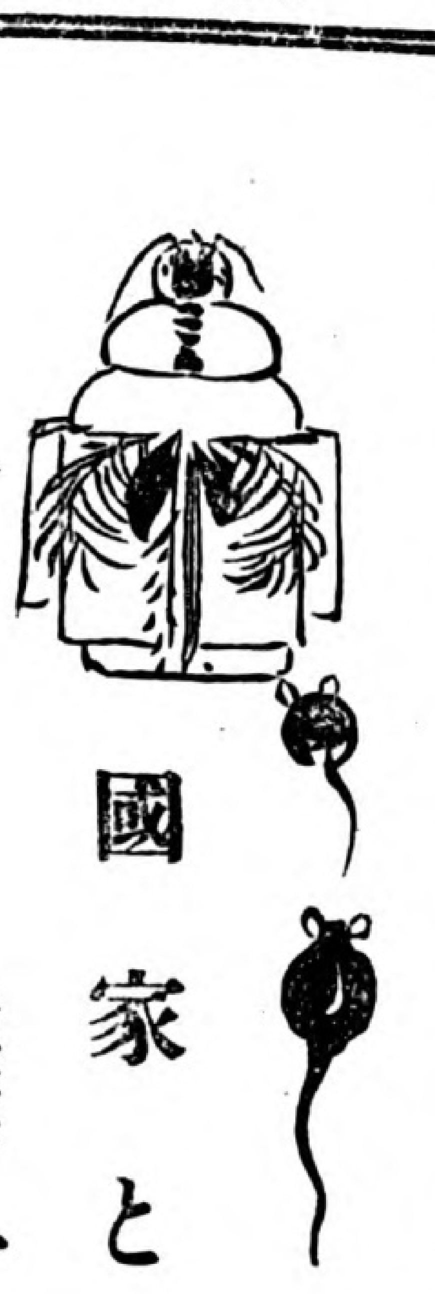
然るに、我國の敎育制度は尙今から三十年位昔の歐米の制度其儘の狀態にあるが、歐米程婦人の敎育が進步して居らず、從つて之に伴ふ弊害の外面に現はれて居るものが未だ歐米程激しくないので、此の方針の眞の誤謬が見出さるゝ迄には、尙二十年の月日を要しなくては困難であらうが、幸に今後十年の後で、早くも之が發見されたと假定しても、今日小學校は勿論中學程度の學校に於ても男女同一の敎育を施して居るし、是等の學校の卒業者を監督すべき家庭の父兄も亦大多數は新しき歐米の事情に通曉せぬ舊敎育を受けた人々であり、又比較的新敎育を有する父兄でも、自己も亦此の方針の下に進むのが正當の如くに敎育された一人であるから、自己の子弟に對しても同一方針で敎育し監督する事となるであらう。斯くて暫らくは矢張り誤謬られつゝ進むべきものと觀ねばならぬ。

▲家門の名を傷け社會を亂す女學生

今日地方の父母が、小學校なり高等女學校なりを卒へた最愛の子女に、尙一層高等の敎育を授けやうと思つて、都會の地に送り、寄宿舍や下宿屋生活を爲せて學校に通はて居る事が大變に多くなつて來て居るが、之は實に危險極まるもので、父母は數百里外に在るので、其處から監督が行き屆く譯には行かず、さらでも誘惑され易い若い女が、寬かな監督の下に日々不秩序不規律不攝生な放埒生活を送つて居るのであるから、其の結果は知るべきのみであつて、遂には一身の不幸を釀すは勿論、父母の名を傷け家名を損じ、延ひては社會の風紀を紊亂する事ともなる。かくて一度墮落の淵に沈んだ女は、到底良妻となるべき資格が無いばかりでなく、最早人の妻となつて女子の天與の使命を果すだけの資格も有せぬ事となる。よし又幸に人の妻となる事が出來たとしても、かゝる不規律不秩序不攝生の生活を味つた婦人が良妻となるといふ事は到底出來ぬ事であり、良妻となることの出來ぬ婦人が良母となり能はぬことは自然の道理である。良母たり得ぬものは又次代の國民たるべき子弟の敎育に就ても、必らずや、良しき得ぬものと觀ねばならぬ。かくては遂に次代の國民の上にも其の弊害を傳へて、家門の繁榮を妨ぐるは素より、國家社會の進運までも障ぐる結果に立至るのである。故に予は地方の父母が最愛の子女を都會の地に遊學せしむる事には絶對に不同意である。それも親族なり友人なりの家庭の一人として嚴重なる監督を施して貰ふ事が出來るならば兎も角、さもなくば寧ろ父母の膝下に置いて、昔流義の監督の下に、女子としての天職を盡すに適する敎育を授けた方が良いと思ふのである。且つ今日は昔と違つて、必らずしも遠く故鄕を離れねば高等女學校とか女子大學等の程度の敎育が受けられぬといふのではなくて、諸種の著書もあり、通信講義の如きも發達して居るので、其の心懸けさへあれば是等の便宜に依つて座ながら相當の敎育を受ける事が出來るのである。

そこで予は何處々々までも男女に同一の敎育を施す事に反對するが、併し小學の敎育は國民として男女共に必らず受けねばならぬものであるから、之は論外として高等女學校の如きでは、智育の發達を圖ることも素より必要ではあるが、夫れよりも寧ろ飽迄も婦德を涵養する方針に因つて欲しいと思ふのである。（つゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



國家と主婦

法學博士　一木喜德郎

總て人間は家庭に生れて家庭に生長し家庭に死するものである。而してその家庭は漸次に增加し繁殖して部落となり、都邑となり、進んでは社會國家を作る事になる。かく人間と家庭と國家とは、鳥の兩翼、車の兩輪の如くに、相倚り相待つて行くものであるから、苟も國家を憂ふるものは家庭の隆盛を計らねばならぬ。而して家庭の繁務を處理し、其の繁榮を計るは、實に主婦たるものゝ任務である。

婦人が一家の主婦として務むべき事柄は、誠に重大なるものであつて、幾多の子女を敎養し、家政を整理して內顧の憂なからしめ、且つ終日外に在つて活動する夫を慰藉するなどは、主婦たるものゝ責務である。語を換へれば、主婦は一家の女王である。古來如何なる英雄豪傑も、如何なる亂臣賊子も、此の女王の配下より出でゝ居る。

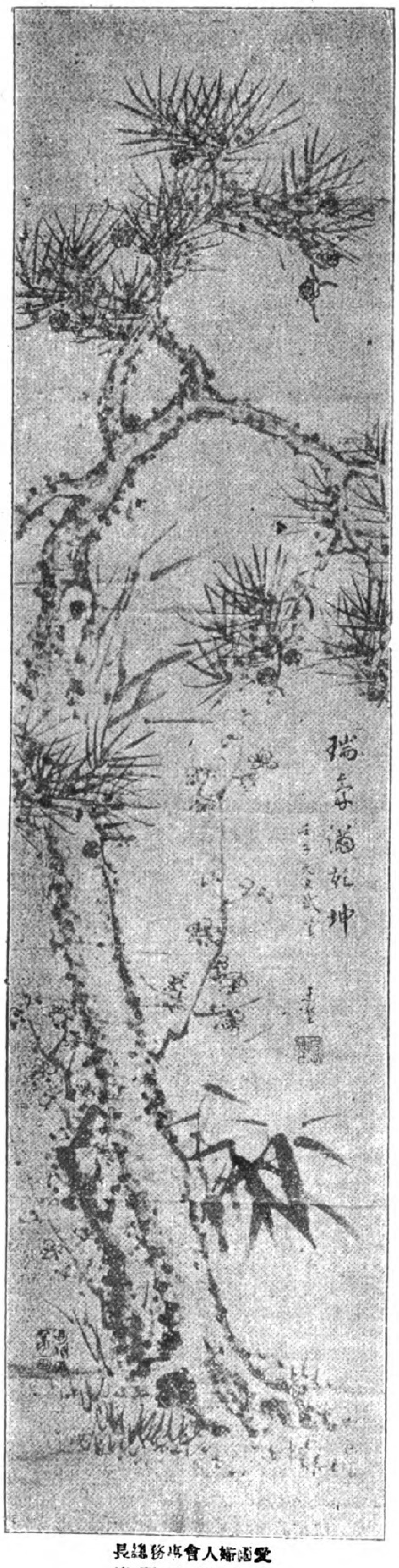
かの進化論者として有名なるチャーレス、ダーキンは「人間は他の諸動物と同じく遺傳の大法に從ふものであるから、世の父母たる者は、その子女をして健全なる發達を遂げしむる爲に、惡しき遺傳を排除して、善き遺傳を與えねばならぬ」と云つて居り、ワイズマンは、「人の生るゝや日夜父母の膝下に在る故、眼に見るもの、耳に聞くものは不知不識の間に其の子に影響する事が偉大である」と說いて居る。且つ人間は模倣性を有し、他人の爲す事を眞似るから、何をしても父母の眞似をし、終にはそれが生涯離れぬ氣質となるものである。必覺、一家の女王たる婦人の心掛け一つで、人間の善惡が分れると云つても、敢て過言はないのである。

先づ其の善良なる影響を見ると、かの伊太利の英傑カブール、此人の傳記は私の幼い時から頗る趣味を有つて讀んだものであるが、カブールは幼年の折に父を失ひ、母と叔母との手に育てられて居たそして叔母の感化も受けたが、主として母の感化を受けて、かの偉大なる成功を爲し遂げたのである。其他斯の如き例を擧ぐれば、眼を西洋史に注ぐ迄も無く、我國にも亦最善の適例がいくらも在るのである。

又妻として內助の功を立てた例は何程でもある。否、古來大偉人の事業は、多く其妻の內助の功が伴つて居る。獨乙の鐵血宰相ビスマークが辣腕を揮ふ事の出來たのも、全く妻の內助によるので、彼自ら「余の妻に受けたる助は語で能く盡す所にあらず」と云ひ、又模範的政治家の稱ある英のグラッドストーンは「英國の富にも代へ難き慰安を與えたるは予の妻なり」と云つて感謝して居る。

又主婦が惡い影響を與えたる實例は頗る夥多であつて、かの不良少年と云はれる者の大多數は、繼母であるとか、或は早く母の手を離れて育つた者等であるのに見ても明白である。

要之、家庭に於ける主婦の一擧手一投足は、直にその敎養せる子女を通して直接間接に國家社會に重大なる影響を及ぼすものであるから、主婦たるものはよく自己の地位並に天職を自覺し、深く戒め愼みてその天職に反かぬやうに努めねばならぬ。



愛國婦人會事務總長
馬屋原二郎筆

●婦人一代の春

三輪田眞佐子

春は一年中の好季節であつて、鳥が歌ひ、花が咲き、霞が棚引き、天空は一面に何となく香ばしき馨によつて滿されて居る。その香ばしき處が、春の尊い所以であります。然るに、一度氣候に變化を生じて、春は來ても花が咲かず、霞も棚引かず、鳥も歌はぬ事となりましたならば、春の尊さは消え去せて了ひませう。人間は獨り四季草木の上ばかりでは無く、人間の一生涯の上にも、矢張り此の大切な春の季節がありますが、女は特に此の時代に注意する事が肝要で御座います。女の美點は、極香ばしい、而し乍ら潔いといふ二點にあります。女が昔から詩人等に神の如く歌はれて居るのは、此の潔く神聖な性質が主となつて居るからでありませう。故に、婦人は邪氣を帶びるとか淫逸に流れるとか云ふやうな事を避けて、何處までも無邪氣で、潔く、神聖でなくてはなりません。然るに、世には往々墮落する婦人があり、よし墮落しないまでも、心の紊れる婦人があるのは大變に殘念な事と存じます。甚だしきに至れば、蕾の春の時代に散つて了う婦人もあります。散るのは未だしも、人の足に踏みにじられ汚されて、塵埃と同樣に棄てられる婦人があります。日々の新聞の三面記事は、實に是等の婦人の記事によつて充されるではありませんか。そこで、婦人はよく品性を修養し、自信力を自覺し、強い自重心を以て、此の春の大切な時代を、價値あり名譽ある季節として通過し、少しも誤る所が無いやうに努めなくてはなりません。

尙又、その保護者たる父兄の方々も、春の香ばしき時代にある子女を、大切に保護する事が肝要であります。季節にしても、時ならぬ折に雪が降り、風が吹き雨がちで、木の枝が折れ、幹が碎ける事があります。之を一個の庭園の樹木としますれば、親切な園丁が豫め霜除けや其他種々の手入れをするやうに、人間の上にあつても、父母や兄姉などが之を保護しなくてはなりません。例ば、旅行するとしたならば、獨りでは旅行させず、必らず適當な保護者と一所に行せるとか、或は新年に歌カルタを致すにしても、猥りに他人の家等にやらず、友人相集つて遊ぶにしても必らず相當な監督者の下に遊ばせるとか、或は市中を散歩するにしても、然る可き女中を伴はせるとかいふやうに爲なくてはなりません。墮落の危險が在る所に近寄らせぬ事は素より、少くとも墮落の嫌疑を受けるやうな場合には、決して近付けぬやうにせねばなりません。然るに、我國の一般の父兄は、稍此の保護を疎に致しはせぬかと懸念しますが、保護を疎にするといふ事は子女に對して親切心の足りない事を意味するのであります。

婦人が前述の如く自ら自重し、自ら神聖にして、潔く其の一代を過すのは、婦人の大なる名譽であり、又婦人としての一個の義務であります。かくして、始めて人の妻となつては高潔に、母となつては風敎を口にし、子女の模範となる事が出來ます。要之、婦人として此の春の時期は一番尙い季節でありますが、又一番危險な時代であることを、呉々も忘れてはなりませぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

感じたる儘に

侯爵夫人　鍋島榮子

止むを得ませぬ限りは、餘り諸方へ顔出しを致さぬやうに努めては居りますが、種々の事情から漸次關係が廣くなつて、樣々の人にお目にかゝつて居りますうち、私の近頃特に耳立つて感じましたのは、言葉遣ひの著しく亂雜になつたことで御座います。奥方とか、奥樣とか、御新造樣とか、斯う云ふ言葉が、區別も無く亂雜に用ゐられるやうに思ひます。何事も自由な今日の世の中で御座いますから、言葉遣ひのやうなものは如何致さうと隨意であるやうなものゝ、餘り區別が立たず亂雜に使はれますのも如何なものかと私は存じて居ります。

言葉遣ひばかりならば未だしものことで御座いますが、衣服や髮形などは素よりのこと、此外何事にも付いて廻つて居るかのやうに思はれてなりませぬ。と申しても、私は何事も古風が宜しいと申すのでは無く、唯何とか今少し規模が立つやうになつたらば、と斯う思つて居るばかりで御座います。尤も西洋の人のお話にも、歐米でも近頃は何事にも以前のやうに規模が立つて居ないかのやうに承りますから、我國ばかりが規模立つて居ないと申すのではありませんが、何に致せ、歷然とした家庭の婦人と、人の機嫌を取ることを主に致して居る婦人と、衣服や髮形までも全く差別の出來ぬなぞと申すことは、決して結構なことではないと存じます。

それにつけても、氏より育ちとか申しますから、子供が一人前になるまでの育ちが至極大切なことゝ存じます。これは私が子供を育て上げて參る折に、つくづく感じたことで御座いますが、育ち盛りの子供には、好い學友を得させることが極肝要で、それには第一に學校の良いのを選ぶことが大事と申すことになるので御座います。と申しても、學校ばかりを頼みに致して、當今の我國の有樣を今少し規模の立つやうに致したいなぞとは申しません。併し、斯ういふことは、學校とか交際社界などで幾分かづゝ矯正して參るやうに注意致しましたならば、今少し規模の立つやうに、致し方次第で出來ぬことも無からうかとも存じて居ります。とにかく、これは何とか致さなければならぬことのやうに、私は思つて居るので御座います。

今日の世の中の何事も自由と申のは誠に結構なことではありますが、けれども、蟻の穴から何とやら申す言葉も御座います、餘り自由勝手過ぎて參りましたら、將來が何うなることかと、案じ過されも致すのではありますまいか。

妻としての女の德

下田歌子

妻としての第一の德は申す迄も無く貞操で御座います。夫に對して獻身的に盡す貞節こそ無二の至寶でございます。殊に日本婦人の貞操は、世界に冠たるものだと稱へられて居るのであります。ですから若し婦人といふ者より節義を去つたなら、それはもう生命のない殘骸と一般、何の價値もないもので御座います。如何に賢くても、又如何に家の用に立つても、人の妻として貞操節義を守る事の出來ないものは、何の役にも立ちませぬ。假令樣々の拙ない節があるにしても、心の操が正しくて、至誠を以て夫に仕へる婦人は、それで萬の拙なさをも補ひ得るので御座いませう。古諺にも「巧に僞らんよりは、拙なく誠なれ」と云つてある通り、意を誠にして行を正しうするのが、婦人第一の要件で御座います。昔の婦人は何事もさて措いて、貞操と云ふ點になると、實に立派なものでありました。生命を失つても、貞操を全くしたと云ふ話は、歷史上いくらもある例で御座いまして、其の貞烈の行は萬世の鑑ともなるので御座いました。ところが、近來、文明の空氣が西洋から傳はつて參つて、學問も進み、商業も盛になり、人の氣風にも變化を及ぼす樣になつて來ました。すると、日本人は無暗と死を急ぐとか、捨てなくてもよい命を捨てるのがいけないとか云ふ說が起つて參つて、それを生嚙して、いかに節操を全くする爲だからとて、唯々死するを以て潔しとする樣なことを奬勵してはならぬと云ふ樣な人も、出來て參りました。それは、無謀に死ぬがよいとは勿論云はれませぬが、命と操とは孰れが貴いと云へば、無論一言のもとに、操は命よりも貴い。操を守る爲には、死をだも辭せずと迄教へてこそ、始めて眞に節操の賴もしい婦人も出るので御座いませう。いづれの國だつて、道の爲に斃るゝ犧牲を尊敬し、歡迎せぬ國はありますまい。何卒若い婦人達は思ひ違へぬやうに致されたいもので御座います。

又妻たる者は、夫の性質をよく知らなければなりませぬ。勿論妻となるまでには、大抵何の樣な人だと云ふ事を知る樣にして置かねばなりませりが、是は自今のところでは、兎ても不可能であります。ですから、妻となつたならば、なるべく早く夫の氣質を呑み込んで、夫の氣に逆らはぬやうにし、又若し夫の氣質に面白くない事を見出したならば、諄々としてよくそれを諫めて直すやうに努めなくてはなりませぬ。是等は、皆自分の誠心から推して爲せば、遂には必ず成功するもので御座います。物を云ふ事も出來ない嬰兒を、母が養ふのを御覽なされ。母はわが兒の泣くのを聞いて、あれかこれかと考へて行くので御座います。子供が別に何と云つて訴へるのでもない。唯母が我兒可愛いと思ふ誠からして爲る事が、自然に子供の思ふ壺に嵌るので御座います。故に、母親には學問がなくても、亦賢明で無くても、最愛の兒の欲する所は、存外よく推察し得て過りませぬ。況して如何に難しいと云つても、夫は大人であります。我が誠を以て考へたならば、夫の性行位は容易に知り得らるゝでありませう。斯くして、夫の意の赴く所を察し、夫の心の欲する所に從ひ、尙ほ夫の缺けた所を補ひ、足らぬ所をたして行つてこそ、初めて內助の功を全くする事が出來るのでありませう。

第三に忍耐の德は、妻に最も必要で御座います。家庭の事情は錯雜して、色々な事件の一度に起る事があるもので御座います。その上に大勢の人でありますから、其間に感情の行違も生ずると云ふ次第で、中々思ふやうになるものではありませぬ。それを一々苦にして病になつたり、又はとても無益だと打ち棄てる樣では、妻としては不適當な婦人だと云はなければなりませぬ。宜しく氣を長く、心を落付けて、幾度も〳〵取り纏めるやうにしなければなりませぬ。殊に不幸が續いて、一家が不如意の場合などに立至りますれば、大抵のものは氣を焦ちて、あくせくする、あくせくする程尙面白く參りませぬ、面白く行かないとなると、何うも一家に紛々が起つて來るのであります。斯う云ふ時に於ても、強き固き忍耐を以て、よく一家の和合を謀つて、すべての家人には慰藉を與へて行くのが妻の役目でありませう。

第四は、妻は常に身嗜みする事を忘れてはなりませぬ。身嗜とは、即ち婦德と申しまして、昔から婦德の一と立てゝあるので、それは無暗に洒麗よと云ふのではありませぬ。婦女は常に相當に化粧をなし衣裝を整へるが禮で御座います。出づる時も入る時も、容姿亂れず、衣服皺つき汚れず、常に淸潔を保つて、而も質素に上品にして、そして長上に對すべきは勿論、目下の者にも、斯くして臨まなければ主婦たる威儀を有つことは出來ませぬ。それ故、それ相當の身嗜みをする必要があると申すので御座います。斯う申したからとて、婦人に洒麗ることを勸める譯では決してありませぬ。虛飾は惡德であつて、身の程に合せた身嗜は禮であります。嫻雅端麗なる容貌風采には、誰しも愛敬の念を起すもので御座います。それをよく〳〵取り違へない樣にしなければなりませぬ。

第五に妻は綿密なる家計調理の才がなくてはなりませぬ。家政の事は、妻が夫から委任されたもので、夫に對して十分の責任を持つて居るのであるから、日常の會計、金錢物品の收支、衣服調度の修繕、衞生から看護と、何から何まで一身に處理して行くには、家政の智識の必要は云ふまでもありませぬ。ですから、婦人たるものは、年少の時より家庭にあつて、實地についての家政の研究を怠つてはなりませぬ。

其外、嗣を謹むべき事、又は嫉妬の戒めなどは、妻として亦極めて必要の事であります。女の嫉妬心に、夫にのみではありませぬ。朋達に對しても、社會の人に對しても謹むべき事であらうと存じます。

愛讀者諸君へ謹告

▲新聞の代金は壹部金錢五厘壹ヶ月七錢であります、此代金は四月、七月、十一月の三回に御請求致します。其の手續きは郵便はがき又は集金人を差出します。其外都合に依りては郵便局に委託し請求致す事もあります。此の代金を御拂りにな

一番安全確實で、紛失や未着の恐れもなく其上郵便賃もいりませんから御便利でございます。但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一個必らず御添へを願ます。

▲[illegible]日の御參考に御保存願ひます。

▲郵便切手で御注文又は御送金の節は必らず一割增に願ひ上げます。

▲愛國婦人發行所の振替口座番號は每號新聞東京一一三八一番であります。

▲お手紙の御住所御姓名は明瞭にお認め下さい御轉居の節は、必らず新舊御住所御認めを願ひます。

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本と文學和歌(上)

東京帝國大學教授文學博士　芳賀矢一

日本の文學を昔から今日まで通觀して考へると、その發達の根柢は歌であるやうに思はれる。世人の知れる如く、日本の歌は歷史と共に古いものであつて、日本の歷史が起つた當時既に歌があつた。我國の古い歷史と云へば神代であるが、其の時代に既に歌があり、素戔嗚尊が歌を詠まれたのが歌の濫觴だと書いてある位であるから、兎に角神武天皇以前に歌のあつたことは明である。又其後には神武天皇を始めとして御製もあるし、皇后陛下や皇子達の御歌もある。それで一般國民の歌もあつたであらうが、何分歷史が不完全なために、これは傳つては居らぬ。けれども漢學即ち支那の文學が日本に入らぬ前、又印度の佛敎も入つて來ない以前に、既に我國に和歌といふ獨特の文學があつたことは、歷代の天皇の御製や皇后の御歌が遺つて居るのを見ても解る。其後支那の文學が入つて來て、この最古の歌を基として、一層その文學思想を發達させたのが奈良朝時代の文學である。

▲女文と歌物語

降つて平安朝時代の文學上の狀態はどうかといふと、此時代の特徵と見るべきは、女の書いた女文が發達して來たことである、この女文の起原はやはり歌にあつて、日記とか物語とかいふ平安朝の文學は、元はやはり歌から出て來たものである。面白い歌があれば、人が喜んで聽いて、且つ其歌は何ういふ時に何うして出來たといふ由來緣起を聞きたがる、即ち其歌の出來た事情を知りたがるのである。そこで歌のいはれ因緣を書いた物語が出來る。萬葉集十六卷はそれであるが之は漢文で書いてある。國文で歌の由來を記す物語が出來たのは、伊勢物語が初めで、續いて大和物語などが出來た。是等は種々の場合に詠んだ歌を一つ宛由來を說いたもので、それが集まつて物語をなして居るのである。

▲歌と日記並戰物語

歌物語のやうに斷片的でなく、系統を立てゝ自分一個の境遇上から、過去の事を考へて、種々の場合に應じ種々の歌を作つた由來を書き集めたが即ち日記で、蜻蛉日記とか和泉式部日記とかいふのは皆此類である。つまり日記は自分の和歌を年代を逐うて書きつないだものである。又他の人物を取り出して趣向を立てたのが、源氏とか宇津保とかいふ物語をなしたのである。所謂鎌倉時代に移ると、今後は時勢が少し變つて來たから、源平盛衰記や平家物語といふやうな軍物語となつて出て來た。是等の物語は矢張り平安朝時代の女文、歌物語が根本になつて居ることは明である。

▲歌と謠曲

鎌倉時代には男文も女文も混台して來た。朝廷の方では政治が閑になつたので尙更ら歌を喜ぶ時代となり、歌ばかりでなく、歌に關する學問即ち歌學が盛に起つて來た。その以後の學問といへば、つまり佛法と歌學の二つで、公家は歌の學問、僧侶は佛法、この二つが結び付いて出來たのが當時の一般の文學で、それが室町時代に至つて謠曲となつた。それ故謠には、一方には僧侶の學問、又一方には公家の學問を含んで居るといつて宜い。謠には歌の講釋が入つて居るし、佛敎の講釋も入つて居る。謠の半面は和歌によつて形造られて居るので、謠曲は歌の趣味の上に成り立つて居ると云つても宜いのである。

▲歌と、連歌、俳句、淨瑠璃

次に連歌もやはり歌から起つて來たのである。歌の法則が漸次嚴しくなつて、作ることが難しくなり、又言葉が漸次昔と異つて來て、歌を學ぶことが困難となつた。且つ歌は神聖なものと考へられて來たので、慰み半分にやるにはあまり規則の無い連歌が宜いといふので、之を作る遊樂が始まつた。これが源となつて鎌倉、足利の時代には、連歌が流行したのである。連歌は日本文學上一の特色を有して居るのであるが、是もやはり歌が根柢になつて居ることは勿論である。それから連歌が又一變し、その發句だけ獨立して一の短い詩が出來た、即ち十七字の俳句である。之が德川時代になつて芭蕉などが出て大に盛になつたのである。又德川時代の文學の主なるものは淨瑠璃であるが、是は畢竟、謠曲を稍俗化したもので。謠曲を本として平民化したのが其起源である。謠は上流、中流の社會に用ゐられて、一般の平民社會には、淨瑠璃が代つて盛に流行して來たのである。前述の如く、日本の種々の文藝は、總て和歌が根本になつて發達して來たのである。日本で美人と云へば小野小町を擧げ、美男子といふと在原業平を指すが、それは畢竟古今集の序に六歌仙として選ばれた爲で、昔から今日まで評判が變らずに居る。光源氏の君の美しいといふのも、源氏物語が歌の書籍として讀まれたからである。この如く我國の和歌がそもの歷代の文學を通觀すると、〱根柢になつて居ることは爭はれぬ所である。

▲歌だけは古今とも衰へず

さて昔の平安朝の物語は、當時の人には面白く讀まれたであらうか、其後言葉が變つて來て、今日では讀むことがむづかしく、又讀めても今の人には餘り面白くない。謠曲や淨瑠璃は今日も勢力があるけれども、連歌の如きは衰へて居る。文學の種類は時代によつて盛衰あるを免れぬものである。然るに歌だけはいかなる時代に於ても必ず流行して居る。極上古の代から三十一文字の歌は行はれて、奈良朝時代、平安朝時代、鎌倉時代に至つても衰へず、足利時代、德川時代にも盛んであつた。今日の明治時代に至つても中々勢力がある。現今は普通敎育の普及と共に、男も女も歌を詠むものが益々多くなつた。かく何故か和歌だけは古往今來毫も衰退せざるのみか、益々昌んである。此等から考へて見ると、古來我國人の作つた歌の數は莫大なものであらうと思はれる。歌がかく如何なる種類の文學にも、亦如何なる時代にも國民の嗜好に投じて居るのは、果して何んな理由に基くかといふと、余は之には二個の源因があると考へるのである。(つゞく)

雲井の御影

▲十二月一日(金)　天皇陛下には遣進大使伏見若宮殿下の兩國帝室の御優待を受けさせられたる趣聞食され御懇篤なる御謝電を送らせたられたりと。

▲同　二日(土)　暹羅國皇帝ヴアーシラウツド陛下戴冠式擧行に付我帝室より御祝電を御贈進相成りたりと　◎故從四位下細川重賢位階追陞に付御使を墓前に差向被仰付　◎故小村侯爵に對し優渥なる御沙汰書を賜ふ

▲同　三日(日)　前日我帝室より御祝電を送らせられたるに對し暹羅帝室より御答電到達したりと　◎東宮殿下伏見宮御邸行啓

▲同　四日(月)　東宮殿下帝國大學御成種々御見學遊ばさる　◎閑院宮同妃殿下高知より御歸京◎東伏見宮殿下逗子別邸御成

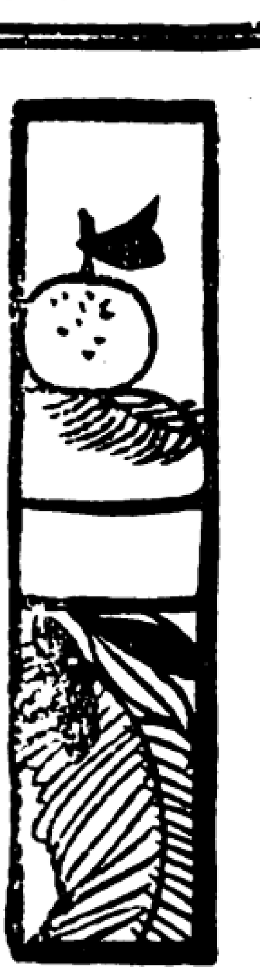
▲同　五日(火)　東宮殿下渡邊宮相、香川大夫其他宮内省高等官に御晩餐を賜ふ　◎宮中月次御歌會御題「暮邸雪」御通題「朝のこがらし、水鳥」

▲同六日　(水)　渡邊宮内大臣結婚五十年祝賀として兩陛下並に東宮殿下同妃殿下より御賜品あり　◎北白川宮大妃殿下伊豫宇和島より御歸京

▲同　七日(木)　軍艦春日乘組大猷海軍中佐以下五十一名の遭難者に對し御賜金あり　◎宮中御煤拂　○東伏見宮殿下逗子より御歸京

▲同　八日(金)　東伏見宮殿下横須賀御成警備艦隊司令官の御資格を以て旗艦鞍馬に御座乘　◎宮中御煤拂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



▲結婚する前に▼

先づ三省せよ（上）

山脇房子

▲ラスキンに顔色無し

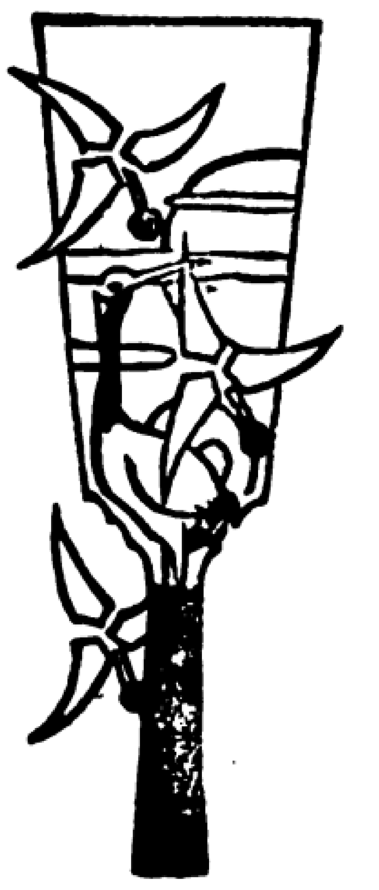
著名なる教育學者ラスキン氏に向つて「子女の教育は何時の頃より始めなければならないか」とある人が尋ねましたところが、ラスキン氏は之に答へて「出生後六ヶ月である。即ち小兒が母親の笑顔に對して笑み、母親の短氣な面に對して短氣を以て報ゆる時である」と云ひました。ところが、之を聞いた他の賢しき某は、ラスキン氏の言葉を否定して「生後六ヶ月では既に遲い、吾人若し完全なる教育を子女に施さんとならば、遲くもその生るゝ二十年前でなくてはならぬ」と云つたさうでありますが、私はこの言葉は誠に意味の深い味ひのある語だと思ひます。

▲自己の無能を公言する母

昔から子供は母親の鏡だと云つてありますが、母親の躾け方によつて子供は良くも不良くも生育もので御座います。母親が恩愛と眞情を以てその子供に接しましたならば、勢ひ子供は母の無限の愛情に引かされて、母の命令にもよく從ひ、行儀もよくなり、我儘も云はず、善良い人となりませう。然るに、兎角世の中の母親は、自分の教育の仕方をあやまつて子供を怠惰に放逸に育てゝ置きながら、恰度子供の罪であるかのやう、その子供は不行儀でこまるとか、怠惰者でいけないとか、親の云ふ事を聞かないとか、種々子供の惡いことを、他人の爲たことでもあるかのやう、平氣で云つてゐる母親がありますが、かゝる人は自分の無能を表白し、それが自分の恥であることを知らぬ人ではありますまいか。

▲結婚によりて社會を害す

凡そ人の妻となり、人の母たらんとする者は、先づ嫁して妻たる本分を充分に盡し、夫に滿足を與へ得る丈の修養があるか什麽、又その子供を第二の國民として恥しからぬ者に育てあげる事が出來る丈の資格があるか什麽、又それに伴つて來るべき艱難に堪へる事が出來るか否かを能く思ひ定め、若しこの重大なる責任と、忍耐とに堪へ得る丈の覺悟も確信もなければ、決して結婚致てはなりませぬ。この覺悟が無くて、唯結婚を急ぐ人は、社會を害するものと云つてもよいと思ひます。併し、娘の方でも餘り年過ぎまで嫁かずに居つて、兩親に心配を懸けないやうにと思ひ、又兩親もこのまゝ嫁入らせてはと懸念しながらも、年頃になれば結婚を急ぐといふ傾向になつて居ります斯うして自分にもその重大な責任を完全に果す自信が無く、兩親も亦夫れを危ぶみながらも結婚させて仕舞うのですから無論夫の內助者として力を盡す事も覺束なく、完全に子女を教育して行く事も出來ません。（つゞく）



貞女烈婦とは如何

【上】　文學博士　三上參次

▲頗る標準を立てる事が難かしい

一言に貞女烈婦といふもゝゝ、さてそれでは、その貞女烈婦といはれるには如何なる資格が要るかといふ問題になると、その解決は中々困難であつて、一朝一夕に決せられるものではありません。例令ば義朝の妻の常盤御前の如き或人は立派な貞女であると云ふが大日本史中の烈女傳には入れて無い、常盤御前が自分の夫の仇敵である清盛の意に從つた事を攻撃して貞女烈婦と稱する資格は無いと云ふ人があれば、一方では常盤御前が身を捨てたればこそ、頼朝・義經の如き子供が育つて、遂に平氏を滅して父の仇も酬ゆる事が出來たのであつて、當時常盤御前が義朝に對する貞節を守つて、死んでも清盛の意に從はなかつたならば、頼朝もなければ、壇の浦の合戰もなく、夫の仇も、父の敵もとれなかつた事であらう、と云ふ人がある。そこで、此の貞女烈婦の標準を定めると云ふことは、頗る難しい事であります。

▲大日本史は如何なる婦人を烈女傳中に記したが

彼の大日本史を見ますと、其の烈女傳中には、第一には貞婦、第二には孝女、第三には賢母、第四には才女を收めてあつて、第一の親に孝行なる婦人の部には橘逸成の娘があり、第二の夫に貞節を盡した婦人としては袈裟御前、源義仲の妻、義經の妾の靜等があり、第三の部には北條時頼の母松下禪尼、楠正行の母等が入れてあり、第四には紫式部、清少納言、小野小町其外の婦人あります。

▲清少納言が貞女とは？

ところで私が玆に疑問を生じたのは、正行の母などは烈女傳に入れても誰も異存はあるまいが、何故紫式部や清少納言の如きを此內に入れたか、と云ふ事であります。紫式部は人の妻となつた事の無い婦人、殊に清少納言の如きは、文筆の上に於てこそ稀に見る才女であつたとしても、やゝ不貞の行爲があつた婦人である。又大磯の虎御前の如き、賤しき職業の者ではあつたが、曾我十郎祐成に操を立てゝ、僅十九歲のうら若い身を尼となつた、天晴な貞女であるのに、之は入れては居ず、之に反して頼朝の妻の政子の如きは入れてある、そこで、私は大日本史の著者が人物を批評する標準が分らず、大に疑を懷いて居たのであります。

▲政子は非凡な事業家として

然るに、近頃に至つて水戶屋敷、即ち今の小石川の砲兵工廠にあつた當時の水戶屋敷と、水戶との間の往復書狀を取調べて、始めて大日本史の貞女烈婦の標準が分り、今まで疑の一つとして居た、頼朝の夫人政子を烈女傳中に何故入れたかと云ふ事も明になつて來た。此の往復文書に依つて見ると、政子は非凡な事業家であつた。夫頼朝を助けて武家政治の基を開き、頼朝死しての後は簾中に政を聞いて、所謂尼將軍と世に敬はれた程で我國の歷史中に於ける婦人の事業家としては第一に指折らるゝ婦人である。斯く政子は非凡の事業家として烈女傳中に入れたといふ事が分りました。

▲個人としての尼將軍

併し、政子が天下的には如何程偉い婦人であつたとしても一個の婦人として見る時には如何であらう。實に缺點の多い婦人である。即ち、頼朝の死後自分の里方の北條氏を助けて、源氏を三代にして滅ぼし、源氏の爲めとしては仕合よき婦人とは云はれず、又母としては嚴格であつたとは思はれるが、子の頼家を餘り可愛がらず、遂に北條氏に殺させたと云ふが如き責められぬ事がある、又義經の妾の靜が八幡社前で靜やしづしづの歌を唄つて踊つた折に、頼朝の激怒をなだめて靜に同情をしたといふやうな婦人らしいやさしい點も見えるが、多くの場合、頗る慘忍冷酷であつた。就中其の大缺點は大嫉妬家であつた事であります。四百年の昔、一夫一妻の制は未だ我國には認められて居なかつたので、當時有力なる地位に居るものは妾を有つことを許されたのであるが、政子が頼朝の妾に對して如何に慘虐なる態度を執つたかと云ふ事は『東鑑』などを見るとよく分ります。實に世の中の嫉妬家の標本は政子であると云つてもよい。政子は前述の如く多くの缺點を有て居る婦人であつた。且つ頼朝と政子との結婚も正式ではなく、妹の夢を買つて頼朝と私通したと云ふ話もあるが此の話は後世の揑造說であらう、と云ふのは當時の書物には此事柄が載つて居ないのである。故に此の事だけは帳消しにするとしても、政子には尚無慈悲、冷酷、嫉妬等の大缺點があつた。

●林田式洗米器　林田式洗米器に[illegible]各宮家の御買求めの栄を蒙り[illegible]

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本の母と西洋の母

法學士　下村宏

▲誠に心細い次第

我日本國は過去半世紀の間に非常の變化と非常の進歩とを來した、同時に我等日本國民は其間に非常に夥大な負擔を有する事となつたので今後我等は餘程敏速に立働かねば迚も西洋人と雁行して國富と文明とを進めて行く譯には行かない、日本人が西洋諸國と雁行し得るや否やは日本人が西洋人と雁行して働き得るや否やと云ふ問題によりて定まる、ところが日本人は働く上に於て西洋人よりも餘程不便なところがある上に働きの資本となるべき體格と智能とが如何に慾目に見ても實際の處西洋人に勝つて居ると見る事が出來ぬばかりでなく隨分劣つて居るやうに思はれる、斯くては誠に心細い次第である、其故日本をして西洋諸國に比して一歩も讓らぬやうにして行かうとするには西洋人に比して智能體格共に一歩も讓らぬやうな新國民を作つて行かねばならぬ、是れ一に家庭の主婦たるもの丶責任であるが、さて然らば西洋の母と日本の母とは子供の薫陶上にどちらがよく注意をして居るか比較して見ると私にも誠に歎はしい事が多いのである。

▲日本の子供と遊はさない

日本の母親は子供の病氣に罹つた折などには寢る間も忘れて看護するが病氣を起す原因を防ぐ點には一向冷淡である、子供が泣けば直ぐ乳房を含ませたり菓子をやつたりする、之は衛生上甚だ善くないことで子供は不時の食事の重なるにつれて胃腸を害し成人しても劇しい活動に堪へぬやうな薄弱な身體となる、之は私が外國で實見して來たことよりも日本の各居留地に於て西洋人の子供の教育の仕方を見れば直ぐに分る事であるが横濱あたりで西洋人が自分の子供の乳母を雇ふ時の條件は何であるかと云ふと、外の事は構はぬが唯其子供を日本の子供と遊ばして呉れるなと云ふことが一つの條件、それから其子供の倒れた時に起して呉れるなといふことが一つの條件である、此二つの條件は所謂自立の奮闘生活といふことを子供の頭に浸み込まさうといふ重大な要素だらうと思ふのである、子供が倒れても起すなと云ふことは自分が轉べば何時でも他人が起して呉るといふ依頼心を起させぬ爲めで自分が倒れた時には自分で起きねばならぬといふ獨立心を養成するのである、又日本人の子供と遊ばすなといふことは日本人の子供は間食をする一方が駄菓子を頰張れば、西洋人の子供だからとてそれを見ると矢張り子供心に食ひたいに違いない、此時に之を耐えさせることは困難である、極まつて食事をさせたい爲めである、畢竟自分の子供が可愛いからであるし、弱い子供を拵へて將來親子共に苦勞をしたくないからである。

▲親達が子供を玩具にしてゐる

私に云はせれば日本人の親達は子供を玩具にして居る、さうして可愛いといふ情に於ては西洋人よりも優つて居りながら其のやり方は反對の結果を來たす、之は始終我等の見るところであつて一例を擧げると寄席であるとか芝居であるとか人込みの中に乳呑兒を連れて行く、之は公衆の慰安的娯樂を妨ぐるばかりでなく長時間の辛抱に堪えかねて泣出す子供には無理に乳房を含ませて健全な胃腸を壞す爲めに骨折つて居る、是では自分の子供を眞に可愛がる所以でなく又健全なる日本人を作る所以の途でもない、

▲躾はかくすべし

又子供の泣く時に無暗に癇癪を出して泣く子供と、をどかす爲めに泣く子供と二通りあるが、癇が強くて泣く子供は病氣であるから醫師に見て貰はねばならぬ一方のおどかす積りでなく小供、自分が道で倒れる、さうすると自分獨りで起きられぬ事はないけれども、どうしたと云つて誰か起しに來るまで泣いて居る、それから何か買つて貰ひたい爲めにおどかしに泣く、其時は子供の兩手を持つて子供の顔を見詰めて默つて居る、それでも子供は唾を吐掛ける、足をバタ〳〵やる、それを三十分も辛抱して居れば子供の方でも是は迚もおれのおどしには乘らぬなアと思つて諦める、それを此次からはいけぬよ、今度だけだよなどゝ云つてだますのは詰り又おやりなさいといふことを敎へて居るやうなものである、子供は己れの計略其の圖に當つたので、心私にそれ見よ又も此の術で占めてやらうと云ふやうな考を起す、是は自分の子供を相當に可愛がる途ではないのである、それに付て漫遊の外國人が日本人の子供は愉快な顔をして居る樂天的であるなどゝ云ふが、それは外國人のお世辭であらうと思ふ、私は外國で隨分所々の家庭に呼ばれたけれども子供は皆素直に出來て居る、私の居つた家でも乳母が夕飯時に乳母車に乘せて子供を連れて來る、折惡しく打揃ふて食事をして居る樣な時には子供が食卓を見て何か食べたいと云ふ、お前さん食べてはいけませぬといふと子供は食べたいといつて泣き出す、すると泣いて居る子供を部屋に連れて行つて寢臺の上に寢かして置く、さうすると獨りで泣きつゞけて居ても五分も立たぬ間に泣き止む、泣き止んだ所で連れて來る、以前の事は云はずに氣をまぎらすと子供も前の事は忘れて嬉々として遊んで居る、之が成長してからの品質、健康といふ上に大なる影響を及ぼすのであらう。

▲つまらぬもので！

尙自分の殊に感じたのは、御承知の通り日本では我々が品物を人に贈る場合にどんな物品を贈つたら氣に入るであらうかといふやうなことで色々苦心して求めたものを、是はつまりませぬが有合せでと云つて贈るのが常である、ところで西洋では何か贈るのでも、之は私が市中を捜して漸く見附けて買つて來たのですと云ふやうに實際有の儘を云つて贈る、私なども彼地で佛蘭西語で話す時にも、ツイ「つまらぬもので」といふやうな癖が出る、是は所謂日本流儀で、惡く云へばひねくれて居る。

▲一寸の蟲にも五分の魂

又外國で人の家に行つて其處に子供が來ると、此子は可愛い子でせう、良い子でせうと云つて、母の方から得意になつて賞め立てる、お客はイヤまづゐいやな子だと云ふ氣遣はない、ところで日本のやり方は全然反對で、お客が良いお子さんで、大層おとなしく被在しやいますねえといふと、ナニ、もういたづら者で、腕白者で致し方が御座いませぬと、お客の前で頻りに誹謗して一種の對お客お世辭と心得て居る、子供はお客の居ない時には隨分我儘もして居る、いたづらもして居るが、お客の前では行儀を良くして氣取つて居る、それをいたづら者だの腕白者、だのと云はれては隨分と癪に觸らざるを得ない、どちらかと云ふと子供は惡いことをした時に攻擊するよりも良い事を爲た時に賞めるが宜しい、それを學校で落第した折に叱り付けることは知つて居るが優等の時に賞めることは知らぬ子供が良いことを爲た時に賞めてやれば尙一層良いことを爲るやうになる、それを女中や何かの居る前で叱り附けられば一寸の蟲にも五分の魂で、子供心にも反抗的の態度に出づるやうになる、內心惡いことを爲たとは知りながら子供心には口惜しさが込み上げてツイ口答へもしたくなる、是が或はある意味に於て日本人の拗れて行く一つの源因ではないかと思ふのである、

支那の哲學などには言行一致とか心口一なる人なるべしとか云ふかと思へば、或は喜怒色に現はさずといふやうなことがある、是は幾ら辛ひことがあつても澁面つくるなといふのであるが、之は時と場合である、子供がおとなしくして居るものを、いたづら者だ腕白者だと云ふ必要はない、つまらぬ事の樣であるが、次代の新國民を作る上から大に愼むべき事であらうと思ふのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鼠ナポレオン大帝を餓えしむ

醫學博士　宮島幹之助

鼠は何でも喰べる。鼠は大變な意地穢なしであるが、又大變に澤山喰ふ、所謂暴食を爲るのである。一例を擧げると、今から六十年の昔、佛蘭西の首都巴里の町に一軒の屠牛場があつたが、某日の事此の屠牛場内に在つた三頭の馬の死骸が一夜の内に何者にか喰ひ盡されて、骸骨のみが殘された。更らに其翌夜には、一夜の内に三十五頭の馬の死骸が同じ有樣となつて殘された。其處で屠牛場の甲乙は大に驚いて種々と詮議を爲た結果、兎も角も之は鼠の仕業であらう、さらば鼠退治を爲なければならぬ、と評議が、玆に一決して、早速征伐に取りかゝつた。殺された鼠の數が、始めてから僅か四日間の內に早くも九千幾百頭と云ふ莫大な數に上り、且つ其の鼠退治は約一ヶ月の間繼續され、辛く其の害から免かれる事が出來たさうである。

古い書物には、鼠が馬の脊に巢つたと云ふ事があるが、丸々と肥え太つた豚の如き、往々鼠の爲めに身體に穴を穿たれる事がある。曾つて獨乙のハンブルグの動物園に於て、三匹の象の子が鼠の爲めに足の爪の間を嚙まれて斃れた事もある。獨り動物のみでは無い、蓋世の英雄ナポレオン大帝でさへも、鼠の爲めに苦しめられた實話があります。夫は西暦一千八百十六年某月某日の朝の事、ナポレオンは出陣の間際に至つて、急ぎ朝の食卓についたが、前夜から豫て準備せられた食物は、美事一物も殘さず鼠の爲めに征服されて了つて居たので、ナポレオンは據なく空腹を忍んで戰場に走せ向つた、といふ事である。

又、鼠は時としては群を爲して移住する事がある。南亞米利加では、規則正しく約三十年目毎に、無數の鼠が申合はしたやうに現はれて來て、大に耕作地を荒すので、種々と其の理由を探究て見ると、漸く、南米には一種の大なる竹林があつて、此竹が花開き實を結ぶ、鼠はその實を喰つて生活して居るが、此竹が三十年位で枯れて了うので、急に食物が缺乏する結果、鼠は群を爲して一時に人家近くに押し寄せる、と云ふことが明になつた。

此の暴食の性質と執念深い性質とか一致すると大仕事をやるのである。其の仕事の武器は前齒であつて、齒の琺瑯質が非常に發達し鑿の如く鋭くなつて居る。又感覺が頗る鋭敏で耳が殊に近い。そしてヒゲの觸覺が強く臭覺も亦最も發達して居る。此點に於て鼠は或は千里眼婦人以上の能力を有つて居るかも知れぬ。

正月の御料理（下）

●代鉢

▲つませりさよりのとくさ燒　さよりを腹開きにして骨をぬき、十分間鹽につけ、兩づまを折りて串にさし、三分間にして裏表を燒き、皮目に白身をぬりつけ、靑のりをこなにして薄くふりかけ、一寸乾かして用ゆ。

▲たひら貝の山淑燒　たひら貝を二つに庖丁してそれをひらき、庖丁目を入れ、串にさし、醬油を二度かけて強き火にて三分間燒き、山椒を少々ふりかけ、一人前に五切ほど用ゆ。

▲信濃むし　そば粒を三十分位湯出、水洗ひし、其中に煮出し三合、砂糖三匁、醬油猪口に一杯半入れて煮、別に鳥肉百匁、味淋一合、煮出し少々、醬油猪口に一杯半を鍋に入れて煮、以前の粒そばの上に載せて、尙以前の煮汁をかける。

●酢の物

▲ふりなまこの柚子酢　なまこの左右を切りおとし、腹を開き、わたをぬき、水洗ひして目笊に入れ、一勺程の鹽をふりて二十分間ふり、少しづゝ水をかけてねばりを落し、薄く切り、別に柚子の實を布巾にて絞り、五勺の酢を加へ、砂糖半勺、鹽一勺、醬油一滴、一寸まぜておき、前のなまこを柚子の皮の中につめ其の上に酢をかけて出す。

▲みの松茸のあちやら漬　みの松茸、罐詰の松茸の根を少しく切りおとし、細くさき、鹽酢につけ置き、砂糖茶呑に一杯、水一杯二分、唐がらし三本入れ、一寸煮て松茸をつけ込み、翌日用ゆ。

▲から草赤貝の紅白　赤貝をとり中身をだし、二つに割り腸をとり、一分位に輕く庖丁を入れ、反對に二分位に切りとるなり、それを目笊に入れ、鹽をふりて笊ごとふる時はのろが取れる、五分位て後洗ひ、うつはに盛るなり、それにいかの皮をむきて三分位に庖丁をはすに入れて、しもをふれば白きから草となる、以前の赤貝と盛合せ、其上にわさびをおろして用ゆ、防風は酢を少々鍋にて入れて、煮立て、其中に入れ、すぐに引揚げ、水にて冷し、五分位に切り、酢の物につけて出す。

（終り）

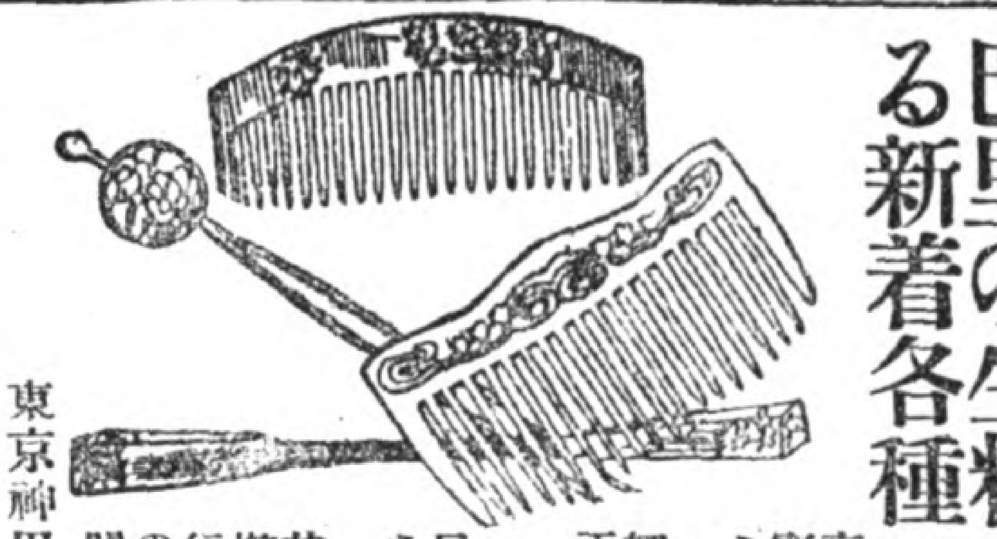
特許 巴風呂
二十分で沸く
二錢の石炭一くべで用は五分一で賢
燃料は何でもよし

特許 巴式 一分湯沸
半分間で沸く水を差せば差す丈湯となつて出る

東京神田區鍛冶町十九
巴商會

新荷着
市内一圓無料配達
越後木崎 甘楽ありのみ
梨御商
神田區今川路路俎橋際三軒目
末廣商店

巴里の生粋を直輸せる新着各種リボン
高尙なる寶石入東髪ぐし
輕工合よき前髪シン
目下流行界に持囃される



鼈甲 萬小間物商
其外御婚禮用鼈甲櫛笄簪及小間物流行品一切尙御便利の爲御持古しの小間物御交換仕候
東京神田區須田町
三井屋商店
電話本局二〇七六番
振替口座二八一番
新橋、博品館内支店、神田、東明館内支店

謹賀新年
千代田香油
交際場裡の花
と稱せらるゝ紳士令孃奥様は
香りよき此の香油に限るとの
高評なり
定價六十錢　卅五錢　廿五錢　十七錢
東京馬喰町スワン石鹼本舖
山岸三之助
電話三七九三
振替二〇五〇〇

ニキビ　そばかす、なまづ、田蟲其他吹出物一切に特効ある藤本藥學士發見最新奇藥製劑發賣す郵劵二錢封入者に該病療法事無代進呈
東京本郷區東片町二一九
振替口座東京七六二九
長田商會

歐米最新流行紳士用名刺　金縁ゴム引
定價五十枚サック入七拾五錢送料八錢
新案滑稽川柳かるた　定價二十錢　送料四錢
遊戯首魁明治成功合セ　壹組
定價拾貳錢　送料貳錢
百人一首歌がるた　壹組
定價特貳圓五拾錢一號壹圓五拾錢二號壹圓參拾錢三號壹圓四號八拾錢送料拾貳錢
泊來トランプ　壹組
定價壹等貳圓二等壹圓五拾錢三等壹圓卅錢四等壹圓五等八拾錢送料各八錢
東京日本橋區馬喰町三丁目廿番地
骨牌問屋　西村商店
振替口座一四五七五番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

皸凍瘡の手當

醫學博士　三島通良氏談

皸を防ぐには油氣のあるものを皮膚に塗り附けて置くがよい、殊に婦人達の如きは普通使用する白粉下、小町水、花いかた、糸瓜水などいふ物を附けて置いても餘程効力があるであらうが、今日の處では彼のベルツ博士の調製に係る藥が一番効能が多いやうである。然るに之には不幸にも劇藥が少し入るので各自の自宅で調合することは出來ないが藥種店へ頼めば直ぐに出來る、又價も高いものではない、其處方は、

一苛性加里　　一、〇グラム
一酒精　　三〇、〇グラム
一グリスリン　　三〇、〇グラム
一蒸溜水　　四〇、〇グラム

の割合に調合するのである、之に香水を少々入れると香氣を帶びた良い藥が得られる、宮中などでも大抵之を御使用なさるさうである、此藥を一度塗り附けると大概どんな皸でも治つて了ふ、アカギレは皸のひどいのであるから、矢張り此藥でよろしい、それから凍瘡は身體中の血液の循環の惡い部分に起る疾患であるがよく子供に出來るものである、之が豫防藥としては普通沃度丁幾が使用されるが之を塗り附けると皮膚があらびて來るから適宜に薄めて使用しなければならぬ其の薄め方は、

一沃度丁幾　　五〇、〇〇グラム
一アルコール　　五〇、〇〇グラム

と丁度半々の割合に調合すれば宜しい、そして朝夕二度位使用するが適當であらう、又凍瘡が若し腫物のやうになりそれが潰れて來るやうになつてからは三十倍の硼酸軟膏を局部に塗附して其上をガーゼなり清潔な紙なりで包んで置くがよい以上は何人が使用しても懸念のない素人療法として一番完全な方法である。（日本赤十字）

●一口ばなし

▲大皷の皮

甲「舊弊なやうだが、物にはそれ〴〵因縁がある。大皷は馬の皮で張るから叩かれる、皷は猿の皮で張るから肩へ上る。」

乙「フン面白い。併し大皷は腋の下へ挾むが、あれは何の皮だらう。」

甲「暫らく考へて、多分鯛の皮だらう」

▲鶯

甲「日本の鶯はほうけきやうと啼きますが歐羅巴のは何と啼くでしやうねえ。」

乙「知れたことよ、あゝめんですわ。」

▲節分

「今夜は節分ぢや、豆を蒔かう。」と桝をしやに構へて立掛つたが、此男性來大吃。

「ふゝゝゝ福は内、おゝゝおゝゝゝゝ。」と云ふと、鬼が門口から覗いて、「オイ〳〵出るのか這入るのか。」

▲珍な開帳

凹凸寺に貧乏神の開帳がある。其の廣告文に曰はく、

「御參詣これなき方へは、此方よりお見舞申ます。」

▲畵より手

畵家「御依頼の畵が今日漸く出來上りました…未だ乾きませんからおさはりになると手が汚れます」

友人「イヤ何に汚れた手ですから幾ら汚れても構ひません」

●理想的の少女雜誌●　精巧なる寫眞と豐富趣味と實益とに富める記事とによりて中流以上の家庭に愛讀せられつゝある『婦人畫報』の發行所東京社にて今回其の姉妹雜誌として『少女畫報』なる新雜誌を發行したるが今其内容を見るに口繪には每號當世一位の畫家の手になるもの美麗なる石版摺として揭げアート二十四頁の寫眞版には廣く少女界の活動は勿論學藝娛樂等苟も少女教育の資料とすべきものは細大洩らず集むると共に記事亦悉く趣味と敎訓とを兼たる極めて面白き讀物のみなれば少女の讀物としては殆んど理想的のものなり、尙正月發行の第一號には意匠斬新にして美麗なるパラダトス双六を附錄としたり、定價拾五錢　郵税一錢五厘　東京麴町區飯田町　東京社發行

謹賀新年
明治四十五年一月一日
婦國婦人會本部
事務總長　馬屋原二郎
同　副長　松井　修德
教養所長　幣　原　坦（旅行中）

謹賀新年
明治四十五年一月一日
愛國婦人會本部
事務員一同

謹賀新年
明治四十五年一月一日
愛國婦人會
敎養所

謹賀新年
明治四十五年一月一日
愛國婦人發行所

流行ショール毛布マント類

神田小川町電車停留場前
中林商店
電話本局二四一九番

新年　賀

全國有名なる金物店にあり
木箱入
金貳圓五拾錢

發賣元
東京淺草區茅町淺草橋際
阿部彥四郎商店
電長下一九二三・三二四八
振替口座二三六三番

謹賀新正
日本赤十字社病院御用達
蒸熱殺菌牛乳販賣所
本店　麴町區永田町二丁目
乳牛場　豐多摩郡千駄ケ谷町
鈴木牛乳店
電話新橋　一九九五
振替口座　二四二四

一弊店の蒸汽殺菌牛乳は最良の牛乳を壜詰の儘一定の熱度と時間とを計りて殺菌したるものなれば滋養成分の完全なるは勿論消毒後開封せざるを以て黴菌等の浸入する事なく又長時間腐敗の憂なきは壜詰殺菌牛乳の一大特色なり

金婚正宗の名譽

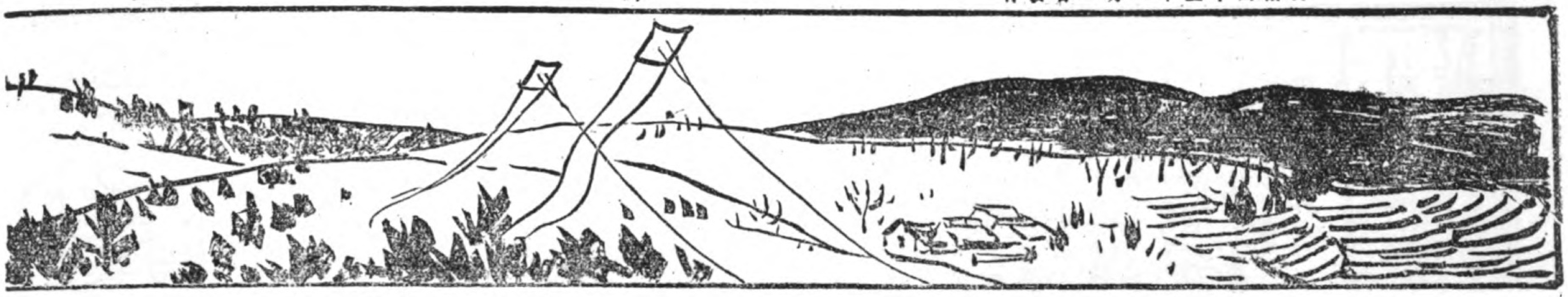
謹賀新年
畏も御買上の榮を荷へり

名譽附特撰金婚正宗は毫も防腐劑を含有せざる故に日常の飲として衛生唯一の好飲料なり

宴會用御瓶詰あり
瓶詰箱入
各洋酒問屋にあり

發賣元
神田美土代町二丁目角
豐島屋本店
電話本局三八八〇
三八八一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



應募和歌　新年山

文學博士　佐々木信綱先生選

天

會津のや磐梯山は白妙の衣着よそひ新年迎ふ　岩代柳津　長谷川吉野子

（評）磐梯山はいはしやまとよみて、古き諸ひ物にも其名見えたり。彼山近き里人が、雪白き高嶺を仰ぎつゝ迎ふべき新年の眺め、いかに美くしからむと。

地

裏山にことしも子等とあふぐかな海よりいづるとしの初日を　福井縣丹生郡豐村　簑輪貞子

（評）海より出づるの一句にて、其裏山のけしきも思ひやらる。秀逸の作。

人

ほの／＼と初日かゝやく大空にあまそゝりたつ富士の神山　愛知縣田原町　山内經子

（評）元旦まづ富嶽を仰ぎ見る心地のすが／＼しさ、言外にあふれ佳し。

秀逸

勇ましく年立つ今朝は杣人の斧初めして山もにぎはふ　岡山　森島古野子

大そらのみどりにつゞく山のはにとしの初日の匂ひそめけり　横濱　鈴木まつ子

いや高くあふがるゝかなさし登る初日まばゆき不二のかみ山　近江　石井田壽ゑ子

年立ちてさかゆくみ代を仰ぐかなうごかぬ山を見るにつけても　岡山　西村長子

炭がまの煙も見えて奥山も今朝はのどかに初日匂へり　伊勢　佐々木樂子

白雪は去年のまゝなるふじの嶺に影新らしき初日さすなり　芝　土師利根子

箱根山湖見えてとは白くあけゆく年の空ののどけさ　備中　林秀子

佳作

いく千代も變らぬ年の初日影富士もつくばもゑみてむかへむ　麻布　浪子

しらゆきに姿粧ふやま／＼の初日にはゆる今朝のけだかさ　京橋　宇佐見こま子

曉の空も一際あらたまの遠山かすむ白雲のみれ　愛知　宮田いそ子

朝日かけふしの高嶺にかゝやきてたふとく見ゆる年のはじめに　丹後　吉村千代子

さし昇る初日をうけて海原に霞みて見ゆる伊豆の島山　府下　衣笠きく子

としたては山もかすみとみゆるなり照る日の本のくもりなき世に　周防　久津摩すま子

ひんかしの山ほの／＼とあけそめて初日の御影あふくけたかな　赤坂　清水まつ子

うら／＼と昇る初日のかけあひて雲間ににほう富士の神山　牛込　杉中春子

松風はのどけく渡り新山の千代なしめつる春の山かな　神奈川　足立原とく子

年立てはみ山に生る木々にさへまつあらたま姿見えける　岡山　曇江幸子

あかつきにゆきふりやみて山の上に年の初日の匂ひいてけり　横濱　鈴木まつ子

明らけき御代のすかたに似たるかな初日ににほふ不二の高根は　千葉　土川像文子

富士の根の雲くれなゐににほふなり年のはつ日や今のほるらむ　同　同人

朝夕に向ひなれたる不二の根もとしたつけふはめつらしきかな　日本橋　酒井よし子

日のみはた立てゝ諸人いはふらん大内山の初日仰きて　岩手　渡邊豐惠子

よろつよも動かぬ山の松か枝に初日さし添ふ今朝のめでたさ　大阪　室谷ひさ子

見渡せはわきてうれしくおもはゆる年たつけさの山の姿の　岡山　西村清子

初日影新たにみゆる富士のねなてらす御代こそのけかりけり　丹後　寺田とも子

吹送る雲解の風は寒けれど年たつ山の影そのとけき　兵庫　三畑たか子

若松のみとりの色のうつくしく年たちかへる信濃路の山　豐橋　みどり子

四方山に初日の光りかゝやきてうこかぬ姿清けかりけり　同　平松いと子

あら玉のとしの始はもろこしの山ものとかに見ゆるなりけり　長崎　芳子

きら／＼と雲に初日のてり添へて見るもまはゆきけさのつくばれ　日本橋　田中やす子

目になれし富士の御山も春たちてかすみに明くる今朝のうれしき　横濱　鈴木伊都子

君か代を千代に八千代とうたふかなはつ日のみ旗に山かゝりて　日向　山下むら子

あしひきの山のおくにも新玉のとしつかにもあけ渡るかな　岐阜　野村なか子

新にの年立かへる四方の山積れる雪た物としもせす　同　田中秋子

つくはれのこのもかのもにとし立てかはらぬみ代のいろそ見えける　茨城　大曾根みつ子

東のうみのまもりとほから／＼あけてそ見ゆる富士の神山　千葉　小出つる子

打ちあらふ淺間か岳もけさみれはいと靜やかにそいきてあり　同　小川世志子

雪積みし富士の高根もあさほらけとし立今日はあらたまりぬる　愛知　岡部ひろ子

のる駒のあかきなそくもなりにけりふしの高根に初日のほりて　四谷　森山及子

あらたまの年たつ今日は一房の峯の姿も珍らしきかな　熊本　田代治子

立つ年をむかへて高し富士の山とつくに／＼に操しめせり　山口　内藤まさ子

さかへゆく春を迎へし山の上にいつる朝日の影のさやけさ　千葉　石井きみ子

散りしける落葉の上に霜見えてふく風寒き今朝の冬かな　京橋　宇佐見こま子

今宵しも冬迎ふらん立田山夜半のあらしの音さゆるかな　大阪　室谷ひさ子

はら／＼と紅葉かつちる夕暮に身にしみわたる北風そ吹く　愛知　山内經子

冬は今いつこの里に迷ふらんゆくへ定めぬけさの初風　日本橋　田中やす子

冬きぬと思ふあしたは我庭の松ふく風も音そかはれる　丹後　吉村千代子

やみませる母いかならん風の音のいとすごくしてけさそ身にしむ　岡山　西村清子

けさはゝやゆきふりそめぬよべよりの嵐や冬をさそひ來にけん　同　西村長子

枯あしの音も身にしむ朝風に氷そめたる池の面かな　芝　土師利根子

初かりの音も昨日かと思ふまに朝風さむき冬は來にけり　日向　白水子

舟ふるふ初冬風のあらければ釣せで人やうちかへるらん　千葉　綿貫むら子

怠りのわれをいさめて冷やかに音つれ渡る冬の初かせ　岩代　小川しん子

こずゑには殘る紅葉もみゆれともふく風寒く冬はきにけり　横濱　鈴木まつ子

●歌題

水鳥（一月十日切）　雪（同一月廿五日）

立春（同二月十日）　霞（同二月廿五日）

●皇后宮の御詠を掲げ奉れる小學讀本成る

畏くも皇后陛下が日常深く徳教の事に御軫念あらせらるゝ事は今更事新しく申上ぐる迄もなき御事なるが先年ベンヂヤミン、フランクリンの十二徳を國風に詠みかへさせられ之を故元田侍講に御示し遊ばされし事あり其後洩れ承はる處に依れば文部省にては此御詠の精神を永く全國の臣民に傳へんとて國語讀本中に拜受し度旨申出でしに陛下には恐れ多くも御手づから御氣に叶はぬ箇所を更に御訂正ありて之を下し賜へりとの御事なるが教科書調査委員會にては之を高等小學讀本卷の三に掲げ奉り既に印刷も成りさきごろ既に發兌したれば左に之を掲げて普く小學兒童のみならず廣く世の人の訓戒とせん。

十二徳の御詠

▲節制

花の春紅葉の秋の杯も
ほどに／＼こそくまほしけれ

應募和歌　初冬風

佐々木先生選評

天

夜店すてし大路靜かに初霜の白う光りて寒き風吹く　麻布　浪子

（評）三四句すぐれたり。初冬といはで初冬の感じよくあらはれたり。

地

こと／＼と土鍋のかゆの音寒う病める庭ふく初冬の風　愛知縣碧海郡旭村　岡部ひろ子

（評）貧しき家の初冬、あはれ深し。

人

たふれふすゴスモスさびし椽をふむ足うらかなし初冬の風　千葉　小出つる子

（評）つめたさ身にしむやうにて。

應募俳句

内藤鳴雪先生選

天

初鷄や高天原のむかし人　美濃國中津町　酒井蝶子

地

若水をさげて行く烏帽子哉　福井縣丹生郡朝日町　三谷富士子

人

初鷄の神の御前に集ひけり　岡山縣和氣郡片上町　守野千代子

佳作

はつ夢や臆して言はぬ妹が顔　伊豫　合田靜也

若水を汲むや閑なる物の音　兵庫　三畑たか子

若水や凍の上に小提灯　同　同人

初鷄や神々の灯の清らかに　同　同人

門松の並木なしける大通り　豐橋　みどり子

若水をくむや少女かしまだ髷　同　同人

若水や釣瓶の繩の荒々し　福岡　安高靜子

初夢を見んとて早うねる子哉　長崎　芳子

初鷄のこゑに吐き出す朝日哉　同　同人

ほろゑひて扶ひかれぬ門の松　同　同人

門松に笠のやうなる雪重し　岡山　西村清子

若水や加茂社の杉木立　京都　山本靜江子

初鷄に伊勢のはたごの寢覺哉　同　同人

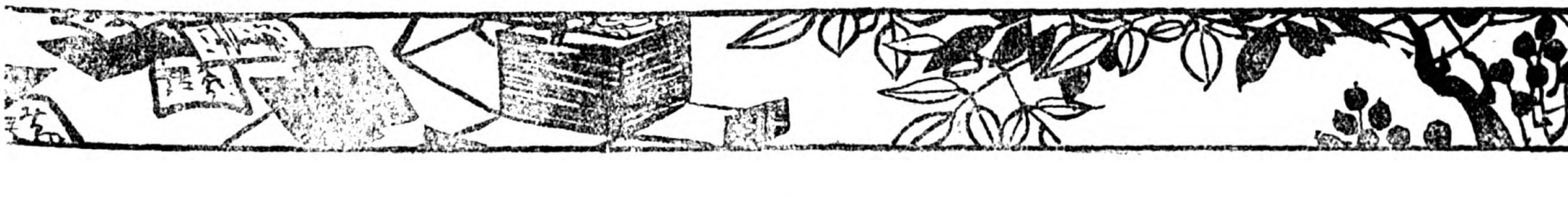
初鷄の聲ほがらかに山家哉　山口　三好照子

門松に門の定まる小家哉　下總　梟山みよ子

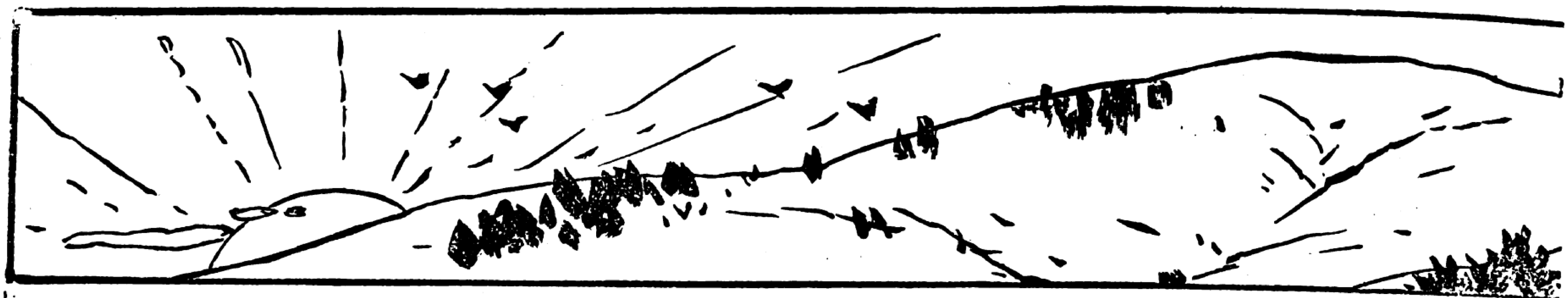
初鷄や浮世の聲と思はれず　宮城　佐藤義子

門松に尿して去りし小狗哉　岩代　長谷川吉野子

裏店は釘付にして下門松や　同　同人



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



（應募和歌）

▶山路菊◀

宮内省御歌所主事
坂 正臣先生選評

天　横濱辨天町　鈴木まつ子

秋もなほ衣は汗にうるほいていこふ山路に菊ぞ匂へる

（評）岩根こゞしきつゞらなりの秋色も浮び人げに稀れぬ菊のなつかしさも深くなむ。

地　豐橋市　平松いと子

まし水に影をうつしてしらぎくのほゝゑむもあり山かげの道

（評）み山路なるのみも清げなるにましみつのかたへにさきたるいかにすが／＼しからむ。

人　牛込早稲田　長瀬錠子

つくろはぬ山路の菊の色よきを都のつとに折りてかへらぬ

（評）山路のは都あたりに造りたるに勝れること數等なり

佳調

かへるさもこの山路をと思ふまでおもしろくさくしらぎくの花　神田　伊藤みの子

日ねもすを山に遊びし家つとは姉の好める野ぎく一本　麻布　浪子

茸狩の蹟に花はふまれてもたゆまでかをるみ山路の菊　岡山　墨江幸子

家つとのもみぢの色にまさりけりかへる山路の白菊の花　赤坂　清水まつ子

溪あひのうねり細道こゝにたえて小さき寺あり菊の花さく　愛知　岡部濱子

世のちとりのたゆる山路に千代を經ておくゆかしくもさける白菊　丹後　寺田とも子

さや／＼と清水流れて風寒き山路傳ひ小菊花さく　岩代　長谷川よしの子

をちこちに紅葉も見えてつゞらなりのぼる山路にきくの花さく　備中　小野ひさ子

まよひぬるこの山みちもうれしきはきみに左にまきくの花さく　岡山　西村清子

うらかれし尾花さひしき山みちにましりて匂ふ白菊の花　三河　山内經子

苔むせる巖がもとに白菊のにほへる山路なつかしきかな　尾張　宮田いそ子

水きよき小川の岸ににほひけり紅葉のかけの白菊の花　牛込　杉中春子

みちのくの山ぢは人もゆかれともかなりけたかく八重菊のさく　石巻　吉田とき子

み山ちに菊折るなとめこととはんこのめにろいほいつこなりやと　岡山　西村長子

ちりのよのものとも見えす足引の山路のきくの花のいろかは　長崎　芳子

紅葉かりかへる山路にうはか家のかきねにたちぬしら菊の花　伊勢　日野千鶴子

亡き母の御名を唱へて手向けり滿の山路の菊を手折りて　岩代　舞田よしの子

あしひきの山路の菊の花さかり千代のかさしにこれをゝらまし　日向　やました

ほろ／＼と紅葉ちりぬる山路に香りの深き白菊のはな　岡山　森島古野子

茸狩にのほる山路のみきひたり野菊の花のいまさかりなり　岐阜　野村なか子

露なから山路の菊を手折りつゝ君か千年をことほきはにけり　横濱　鈴木伊都子

枯れ果てて秋は淋しき山路に咲き殘り居る菊のあはれさ　飛彈　田中秋子

ましみつのいはにたはしるやまみちにうすむらさき咲にのきくかをるなり　本郷　中村えい子

朝露にぬるゝ山路のしらきくは世の嶮さけて千代にくらむ　芝　土師利根子

▲清潔
しろたへの衣の塵は拂へども
憂きは心の曇なりけり

▲勤勞
磨かずば玉の光は出でざらん
人の心もかくこそあるらし

▲沈默
過ぎたるは及ばざりけり假初の
ことばもあだに散らさざらなん

▲確志
人心かゝらましかば白玉の
眞玉は火にも燒かれざりけり

▲誠實
とり／＼につくるかざしの花もあれど
にほふ心のうるはしきかな

▲溫和
みだるべきをりをばおきて花櫻
まづ笑むほどを習ひてしがな

▲謙遜
高山の影をうつして行く水の
低きにつくを心ともがな

▲順序
奥深き道も極めん物事の
本末をだに違へざりせば

▲節儉
くれ竹のほどよき節をたがへずば
末葉の露も亂れざらまし

▲專靜
いかさまに身は碎くともむら肝の
心はゆたにあるべかりけり

▲公義
國民をすくはん道も近きより
おし及さん遠きさかひに

秀逸

いつしかも此の山松にふく風の高うなりつゝ白きもの呼ぶ　本郷　中村えい子

天そゝり枝をならして落日の底に風よぶ初冬の森　尾張　土川保子

紅葉せし梢あらはに冬のきてかしの老木に風さわくなり　赤坂　清水まつ子

黒き山やせし木立のすゝりなく初冬は來ぬ風の男つれて　千葉　小川世起子

護國寺の夕冷たきおくつきにもみぢ葉さそふ初冬の風　牛込　杉中春子

山茶花は垣に匂へと夕日影冬のはじめのかせそみにしむ　橫濱　鈴木まつ子

初冬のよさむの風よ心していたくなふきそ母のまくらに　千葉　土川倭文子

佳作

遠方の山のもみぢばちりはてゝ冬來にけりと風さえにけり　茨城　大曾根みつ子

濡れたるころもの袖のおのたけにまつ初冬の風を知るかな　神田　みの子

風の外は訪るゝ人もなき庵のとさせる庭に冬は來にけり　越中　森ときは子

あれにける賤が伏屋のいふせきにすさましく吹く初冬の風　長崎　芳子

火桶おく疊の冷えも身にしみてこの夕風そ冬とふきぬる　京都　但村はつ子

牛おひて歸りをいそぐ夕暮にさむさ身にしむ冬の初風　岡山　墨江幸子

むれつとふ蝶にもにたる紅葉ばの風にとひかふ初冬のそら　日向　河野登久子

柿の實ののこらぬこずゑ吹く風の音つれ寒し冬や立つらん　下野　渡邊文子

もみぢばを播きしあまりの木枯は殘る柿のみ打拂ふなり　石川　森野忍子

秋と冬のあひの中垣いつとれてやま風つよくなりにけるらん　岩手　渡邊豐嘉子

冬なれぬ庭もなかめのうら枯れてさひしき風の音かな　豐橋　平松いと子

きのふより今日ははげしさいや增して吹音寒きこからしの風　京都　瓦久子

秋の色殘る日かけに初冬の夕風寒き山豁の家　兵庫　三畑たか子

初冬や山居の窓にはら／＼と木の葉誘ひて風すさふなり　岩代　長谷川よしの子

紅葉をさそひし風もしらきくのこころかきれにかをるころかな　日向　やました

散りのこる紅葉にけさはしも見えてはたへさむけき冬の初風　兵庫　下岡松枝子

落葉つもるあしたの庭のつゆしものぬれいろさむく風たちにけり　岐阜　野村なか子

水際なるあしいたつらに折りふせて冬たつらしもあしたの風に　同　同人

おしまるゝ紅葉はならてよのちりをはらはゞうれし冬の初風　石巻　吉田とき子

冬なれぬ身には寒さをおぼえけりはゝその原の木枯のかせ　丹後　松浦深美子

紅葉をはらひつくして淋しくも松にもわたる冬の山風　岡山　森島古野子

初鶏のうや／＼しさや神の庭　岡山　森島吉野子
夢の中に鳴く初鶏や神の告げ　愛知　宮田いそ子
初夢や旗にはやらぬ事許り　越中　森ときわ子
若木に君が晴着の映りけり　岩代　小川しん子
泣き立つる兒に初夢を破られし　岡山　守時千代子
初鶏やそのひんがしの山に明け　美濃　酒井蝶子
嬉しさの初夢秘めし日記哉　同　同人
若水は女松が原の根に溢る　同　同人
初鶏の鳴く丈け晴いて靜かなり　福井　三谷富士子
若水にうつりて惜き白髮哉　同　同人
門松にやゝよしずきし小家哉　茨城　大曾根みつ子
若水や盡ぬ流れのみなの川　同　同人
初鶏や東に向つて人笑ふ　岐阜　田中秋子
夢の世の初夢覺めて夢心　愛知　岡部廣子
門松や旭を一面に家高く　福井　森谷松枝子
門松の流砂つゝく雀かな　同　三谷貞子
初鶏の鳴かぬ月はなし御代の春　同　同人
若水を汲むや雀も知らぬ内　同　岡山せい子

◉俳題
雪、冬木立、水仙、蒲團、（以上の内隨意）（一月十日〆切）
寒梅、冬の川、氷柱、鴛鴦、（一月二十五日〆切）

○募集俳句
內藤鳴雪先生選

天　南無佛冊冬籠るべく炬燵して　岐阜　てふ子

地　埋火に一九が繪本古るびけり　紀伊國尾鷲町　中島まさ子

人　寒月や誰そ礫する池の音　京都佛光寺烏丸西入　但村はつ子

佳作

山茶花や嵯峨は隱士の破れ垣　岩代　長谷川よしの子
卅一つ埋火と共に埋めけり　ハリマ　石坂みつ子
寒月の光り凉める落葉哉　同　同人
吞みに散り吞みに散る波や寒の月　福岡　安高靜子
埋火や深き契りの月一つ　愛知　岡部廣子
山茶花や持てば冷き花挾み　京都　山本靜江
寒月や狩りもらされてなく狐　越中　森ときわ子
來て見れば留守にもあらず冬籠　同　同人
獻立も其日／＼や冬籠　同　同人
山茶花や張板乾き夕日時　同　同人
新しく傾く冬の日南哉　尾張　宮田いそ子
溫泉の道の十三峠紅葉かな　千葉　綿貫むら子
初冬や四條五條の橋の上　同　同人
紅葉からもれて日のさす書院哉　愛知　村松のぶ子
牛率ひて紅葉の谷を女かな　同　同人
紅葉山峰より落つる水清し　兵庫　三畑たか子
風に消き灯の見ゆ泊り舟　同　同人
參明の君家消の匂ひかな　同　同人
寒夜に步哨の影の孑然と　岩代　渡部さく子
寒月や李の葉冠る狐の子　紀伊　中島まさ子
遍鍋の聖の一句月寒し　同　同人
埋火や歌の論議に夜は更けぬ　同　同人
埋火のあとかたもなく消えにけり　同　同人
埋火にぶらりと黒き土瓶かな　福岡　安川ちか子
寒月や壁にしみ入る松のかげ　茨城　大曾根みつ子
若けれどこたつに籠り候らひぬ　本郷　中村えい子
風致の空洞やましらの冬籠　同　同人
公園や山茶花の外花もなし　同　同人
埋火や蛟られぬ老のうづくまる　同　同人

●記者申す、阪先生の御都合により若菜を次號に廻し山路菊を本號に掲載する事に致しました、不可惡思召を願ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

杉立出世物語

細川風谷講演

〔上〕

慶長十三年藤堂和泉守高虎、封を勢州に移されてよりは、伊賀の上野は申す迄もなく、城州、和州の兩國に於ても土地を賜はり、元和の元年五萬石の加增、同く三年又も五萬石の加增合せて爰に三十二萬三千九百石、彌が上に彌榮えられましたが、二代は高次、三代は高久、四代高睦、五代高敏、代々の明君、或る年のこと、吉野山の櫻狩、是は〳〵と許り花の風情の最と面白く、主從打興じて居ります其中に、何事ぞ花見る人の長刀、爛醉侍の亂暴狼籍・惡くき奴取て押へよと、白地に黑の子持筋鬼蔦の幔幕引絞つて高敏殿の御沙汰、一名心得飛で出で、六尺棒を斜に構へて軈ての事に突出す腕前鋭く忽ちの中に彼の醉漢を取て押へ、用意の細繩取出して高手小手に縛め、傍の櫻の木に繋ひて目禮して退りました床しさ 高敏「天晴なる働き、何者である」△「恐れ乍ら申し上ます、衣笠久馬組下足輕杉立治兵衞と申す者にございまする、」高「左樣か、士分以下の者でも苦しうない此處へ」と、軈ての事に御前に召され、御手づから御印籠を賜はりましたは此上も無い名譽のこと、然るに褒美は之に止らずして七日と經ぬ中に又召出されて賜はりましたは

新地百石郡奉行下役、戰場で兜首を取りましてもナカ〳〵之だけの出世は難かしうございます、況てや弓は袋に刀は鞘の太平の世の中、意外の出世と人々驚き、人々嫉み、之より同列となる者共は尙更のこと彼是と、評判致しまする 甲「ヂンだナ、彼の杉立と云ふ奴は、たかが足輕ではないか、爛醉の侍二人や三人、誰でも取て押へるワ 乙「尊公も丁度其時に居合して居つたが何故押へなんだ 甲「拙者は生憎其時に麻痺がきれてナ 乙「兎角さう云ふ時に麻痺のきれる男だナ 甲「默らつしやい、第一足輕と云ふ者は臭がある、足輕臭と申して傍へ寄付ける事も快くない、足輕々々飢るがる、鐵砲擔げば重たがる、家へ歸れば眠たがる抔と申して足輕に碌な奴は一人も無い、左樣な者と同席は洵に殘念 ○「如何にもそれは尊公の言ふ通り、彼ア云ふ奴と一緖になるのは洵に面白からん事、穢はしい」と寄ると觸ると斯ゝる噂、チラリホラリと耳に聽くに付て杉立治兵衞が殘念で堪りません、杉「私は兎も角も、御見出し下し置れた殿樣に對して申し譯が無い、何とか一つ工夫をして斯樣な噂さを止めたいものだ」と頻りに苦心を致して居りましたが、或る年のこと、藤堂家領內不作、產物第一の綿が出來ません、家老藤堂圖書郡奉行其他の者共を集め 圖「偖一同、斯樣な時の爲に豫々倉へ取入てある綿を一つ賣下やうと思ふが如何ぢや △「それは洵に善い處へお氣が着かれました、其儀が何より手前共も心得まする」一同更に異存がございません、其中に只一人杉立が腕を組で考へて居る樣子 圖「コリヤ杉立其方は何か思案の體ぢやが別に工夫でもあるか、杉「恐れ入まする事ではございますれど、私少々存じ寄がございまする、と申すは他の仔細でもございません、御考へ至極御道理とは存じますれど、既に御隣國紀州領松坂に於ては松坂木綿と云ふ物をば賣出し、江戶表に於て大層流行致して居るやうに承り居りまする、御當家でも何か彼の樣な品御拵へは如何かと存じまする 圖「何かと申して其方考へた事でもあるか 杉「恐れ乍ら申し上ます、龜甲縞と云ふ物をば織立てはと存じ、委細書面に認め持參仕ります、御披見下し置れまする樣に」と手に手を經て圖書の前に置かれた一封、圖書が披いて見ると驚きました、織立方總ての方法事細かに書てございまする、感心致して、圖「吁善い處へ其方は氣が着いた、彼是と云はうより之に致さう、金子は幾許掛つても宜いに依て反數は成べく多く織立よ、又誰彼と申さうより其方萬事の支配を致すやうに」と云ふ難有き言葉、面目を施して杉立が是から致して其手順を運び、宮城川の片傍に工場を拵へ、機織女を澤山集めて織も織ました三十萬反。藤堂圖書が、どうして此反物を捌くかと尋ねて見まする と 杉「先づ第一に大阪表其次は江戶表と存じ居りまする 圖「左樣か、夫ならば」と云ふので其道に經驗のある郡奉行野口太兵衞と云ふ者を喚び

圖「品は海路倉屋敷に送り、其方陸路大阪へ參つて出入商人と引合を致せ、一反八匁以上で無うては賣るなよ」と云ふ內意、野口太兵衞命を受て軈て大阪へ參り、倉屋敷出入商人心齋橋筋袴屋久右衞門の手代助七と云へる者と引合をして見ますると 助「七匁に戴きたう存じます、併し兼々御贔負を受て居りまする藤堂樣の事ゆゑに五分買上げて七匁五分に戴きませう、八匁にはなか〳〵屆きません」と云ふ話、野口が心の中で思ひました「それ見ろ、一體、恐れ多い事だが殿樣初め御家老樣の乘込方が强過る、たかが足輕上り、何で好い分別があるものか、三十萬反も織立てどうする積り、揚句の果は足輕上りの杉立が腹を切れば濟む事、己が腹を切る譯でも無いから痛くは無い」と其儘引返して來て復命、別段力も落さず藤堂圖書が、御苦勞と云ふので野口を歸へし、軈て杉立治兵衞を喚寄まして 圖「偖杉立、唯今野口が歸つて來ての話は斯う〳〵だ、見込が違つたのう、イヤ力を落すな、人間見込違ひと云ふ事は澤山ある．之が爲めに殿樣から其方が御叱りを受るやうな計ひは圖書致さん、又此圖書が之が爲めに御叱りを蒙むるやうな事も無いから心配するな、併し之から先織立る事は廢せ、此上の損耗は益なき事、損と見込が着いてから其上に損をするのはつまらぬから・・・ 杉「申し譯の無い事でございます、併し私考へまするに一反十匁以上の品と心得居ります 圖「貴樣が幾ら心得ても袴屋の手代助七と云ふ者が更に心得て呉れんさうぢやから致し方が無い、斷念めよ 杉「私一つ大阪表へ參りまして對談致したうございます 圖「夫は廢せ、其道に明るい野口が引合致して屆かぬものが、其方が行て引合をして屆くやうにも考へられん・・・ナニ强て行きたいと申すか、成程自分が拵へて心ろの屆かぬと云ふのは殘念なこと、さう云ふ考への浮ぶも無理ならぬ、夫では杉立斯う致せ、念晴しに大阪へ行て引合て見ろ、話が屆かんでも夫迄の事ぢや、唯其方の念晴しに行くが宜からう 杉「難有きお言葉にございます、就きまして尙更相濟みませんが二百兩だけ遣捨金が頂戴仕りたうございまする 圖「夫こそ罷めたら宜からう、設令一文でも半文でも損の上塗をすると云ふは益なき事、泥溝へ捨ると云ふは此處の道理だから罷めたら宜いではないか 杉「お言葉を返して恐れ入まするが推してお願ひ仕ります 圖「推して願ふ・・・夫では其方存じ寄があつての事であらう、然らば尋ねるが若し其方が考へ通り往かざりし節は何とする 杉「其節は藤堂家の御門を再び潜りません考へにございます、腹搔切つてお詫を致しまする 圖「左樣か、夫程の決心がある上は存じ寄もあるであらう、其儀聽いた上は百二百の金子何か惜まん、遣はすであらう」と大腹中の藤堂圖書が與へました二百兩、恩を拜して軈ての事に杉立が大阪倉屋敷にやつて參りました。倉屋敷の面々何れも彼の龜甲縞の引合で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あらうと思ふて居りますると、五日經つても六日經つても別に袴屋方へも使者を差出しません、下役の面々も不思議に思ひまして「使者を差出しませうか」と尋ねて見ますると「ナニ夫には及ばん」と云ふ挨拶、變な事だと思つて居りますと、或日ブラリと杉立が外へ出て夕ぐれ少し過に歸つて參りました、翌日も其如く翌々日も亦其の如く、妙な事だと一人或日尾いて來て見ますると大阪市中を何と云ふ考へかブラ〳〵歩ゐて居る、時折は觀せ物小屋の前に立て看板抔を眺めて居ります、何の事か少しも理由が分りません、其翌日も尾いて見ましたが同じ樣な有樣、四五日尾いて見たがねッからどうも手應への無い樣な事でございますから、馬鹿〳〵しいと遂には誰も跡を尾ける者がございません、杉立治兵衛人が尾かない樣になつたのを察して、もう宜い頃だと或日の事、ブラリ〳〵彼方此方と歩いた揚句、差掛つて來たは大阪心齋橋筋袴屋久右衛門店先　杉「許せ」番頭「被入いまし」杉「土産に致したいが四五反反物を見せて與れ」番頭「畏りましてございます」と軈て自分の前に並べました反物、打返し〳〵見て居りましたが　杉「其處にあるのはそりや幾許ぢや　△「七匁五分にございます　杉「ハア、其前にあるのは　△「九匁にございます　杉「ウム、其横の處にあるのは　△「十二匁にございます　杉「其品は好い品ぢやナ　△「御意にございます」と手に取て其品を尚は熟く視て居りましたが、どうやら己が拵へた龜甲縞と品質が同じ樣に考へられます、杉「コリヤ……　△「ヘー　杉「當家に助七と云ふ者が居るか　△「ハイ、居りますでございます　杉「一寸逢ひたいナ　△「左樣でございますか、唯今助七お眤みのお方で被在いますか、奥庫で働いて居ります、直樣呼で參ります、少々お待を願ひます」通知を受て軈ての事、眤みの客と思ひまして飛で參りました手代助七、杉立の前

に頭を下げまして　助「エーお待せを致しまして相濟ません、手前助七にございます、毎度御最屓を戴きまして難有い仕合せで　杉「毎度最屓抔は致さん、私はお前に初めて逢ふ、此店へ來たのも初めてだ　△「左樣でございますが……　杉「商人と云ふ者は好く世辭を申す者ぢやナ、そりや兎も角も、私は藤堂家の家臣杉立治兵衛と申す者ぢや　助「左樣でございますか、藤堂樣の御藩で在せられますか御倉屋敷からは始終御最屓を戴きまして……お使を下されば品々を持參致して御覽に入れまするものを、態々御出下さいまして恐れ入ます、存じません事とて失禮の段どうぞ御勸辨を願ひます　杉「イヤ鄭寧な挨拶には及ばん、一寸尋ねたいと云ふのは他ではないが、先般野口太兵衛殿此大阪へ參られ、龜甲縞に就て其方と引合を致した節、七匁に戴きたい所でございますが藤堂樣のことゆゑ五分買上げます、八匁には屆きませんと申したさうぢやが確と左樣か　助「仰せの通りでございます、どうか御勸辨を願ひます　杉「何も勸辨を願うには及ばん、時に助七、助「ヘー　杉「其處に在る七匁五分の品と龜甲縞と何方が宜いと貴樣思ふ　△「ヘー之はもう疎末い品でございまして迚も龜甲縞には叶ひません　杉「ハヽア、其處に十二匁と云ふ品があるが、慾目かは知らざれど、どうやら私の考へでは龜甲縞と同じ位の品と思はれるがどうぢや　△「お目の高い事でございます、併し之とても龜甲縞には少し叶ひません　杉「夫では其處に在る七匁五分の品は兎ても及ばず、十二匁の品とて少し龜甲縞に叶はぬと斯う申すのぢやナ　助「御意の通りでございます　杉「少し前へ出て貰はう　△「ヘー　杉「少し前へ出て貰はう　助「御立腹では恐れ入ます、どうか御勸辨を……　杉「度々さう勸辨を願うには及ばん、立腹は致さんが聞捨にならん今の一言、問ふに落ちず語るに落ちるとは此處の事、夫程好い龜甲縞なれば何故あつて野口殿が八匁に買取れと仰せられた節に屆かんと申した、商人故に儲ける事は勿論なれど貪るとは不埒な奴、夫とも其言に仔細あるか、仔細があれば宜し、仔細がなければ此場に於て氣の毒乍ら其方の生命は此杉立が貰ふから左樣心得ろ　助「飛んだ事になりまして、さう云う樣な考へで申し上ましたのではございません、どうか御勸辨を……　杉「イヤ唯勸辨は致さぬ、理由があれば宜し、理由が無ければ今申す通り生命を貰ふ、胸を定めて返答致せ　番頭助七怯々致して居りましたが、躊躇ならん此場の仕儀、漸く覺悟を定めまして　助「恐れ入ましたお言葉でございます、それ迄の仰せでございますれば一應仔細を申し上ます、どうかお腹立の無い樣にお聽取を願ひます、一體反物と申しまするものは何の樣に好い品でございませうとも、店へ出して賣れますと賣れません物とございまして、品柄其他人氣に向ひます樣子は何とも初めから確かには分りかねます事でございます、龜甲縞は私が申し上ます通り好いお品でございますが、夫ぢやと申して初めから高價く頂戴致す譯には參りません、思ひ切て私が七匁と見込をつけましたが、始終御最屓を蒙むる藤堂樣の事ゆゑに五分買上まして七匁五分と斯う云ふ次第でございます、そこで店へ置きまして愈々賣れると定りますれば、八匁は愚なこと九匁でも戴きます、貴下樣が唯今お尋ねの節に、七匁五分の此品は龜甲縞より好いと申し上げ、十二匁の品は飛切、とても龜甲縞が足元に追付どころではございませんと申し上げましたら却つてお叱りが無つた道理でございますが、お言葉を返して恐れ入ますが、私は商人故に儲ける事は存じて居りますが貪ると云ふ考へは曾てございません、今申し上ます通り、頂戴致しました其上で店の賣口に依りまして八匁が九匁でも戴きます、初めから左樣屆きませんのが商賣の道でございます、どうか惡からずお許しの程を願ひまする」暫時の間助七の顏を見て居りました杉立治兵衛　杉「吁こりや私が惡かつたのう、成程其方の言ふ通り、幾ら好い品でも賣れるか賣れぬか分らんから初めから高く買へんと云ふのは道理千萬、商賣道に依て賢こし、餅屋は餅屋、素人了簡はいかんものぢや、之は私の言ふた事が惡かつた許して呉れ、のう助七　助「飛んだ事でございます、御勸辨下さいまして難有う存じます　杉「此品は倉屋敷へ送つて置け、留守でもよい、杉立がと申して代金を取て置て呉れ、チと遊びに來いよ　助「難有うございます、何れお詫に罷り出でます　杉「詫には及ばん、甚い店を騷がして濟ん事であつた、許せ」。其儘店を出て横町に曲つて參りました杉立治兵衛ホッと息を吐て　杉「吁之は見込が違つた、理窟で助七に八匁で引取らせやうとしたが其道に掛けては素人よりやはり上手だ、好い品さへ拵らへれば賣れると思ふたは所謂畠水練、こりや私は次第に依ると腹を切ねばならぬわい、元より太守に捧げた一命何かあらん、去乍ら斯樣な時には漫りに周章るものでない、十分に心を沈着けねばならん、夫には面白い物を見、面白い物を聽き、寛くりとして一思案をするに限る、夫で好い工夫が付けば宜し、付かざる節は腹を切る迄、こりや周章る所で無い」と心常に沈着いて居る杉立治兵衛が、我と我心を心に押へさせて立歸つて參る倉屋敷。（つゞく）

日本橋區元町大阪町八番地

高木與兵衛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●西洋人の好む日本服

▲趣味の向上 近頃西洋人の中にも日本趣味を解釋する方が多くなり、日本品に對する趣向が大變に向上して參りましたので、今までのやうに濃艶いものよりも、一般に淡泊なものが喜ばれるやうになつたと云ふ事は間違の無い傾向で御座います。一例を擧げまするど墨繪の軸物に眼着る人がありまするし、陶器などでも金ぴかの物よりも却つて日本流の墨繪など書きましたのが喜ばれる傾向があります。

▲刺繍 何と申しても日本品の内で一番西洋の方に賣れ行きのよいのは刺繍のある品で御座いまして、御覽の如く、上衣、長衣を始めと致して、茶たくがけ、ネクタイ掛け、寫眞立、皿しきは素より帛面にまで刺繍を致したのがあります。

▲上衣 は仕立てたのもありますし、衣地でも有りますが、皆刺繍か致してあります。西洋に歸國る方が本國へ土産に大變御持歸りで御座いますが、色合は主に白で御座います、之は贈物を受ける方の好不好がありますので、わざと誰にでも向きのよい白地が出ますのです、値段は大概七八圓位で御座います。

▲刺繍 の致してある皿しき、ネクタイ掛、はがき入れ、茶たくかけ等も能く賣れますし、扇子も角製のと竹製のと木製(ビヤクランと云ふ香のよい木を骨に致したもの)それから上等品になりますと象牙骨のものなどが大變喜ばれまして、能く出ますが主に一圓五六十錢から三圓迄の品で御座います。手提も底を竹にして友禪縮緬や刺繍を致した羽二重などで作へたのが出來て居ります。

▲刺繍の模樣 で御座いますが、西洋人一般に動物の繪よりも、草花とか鳥とかと云ふやうな、先づ植物性のものが趣味に合ふやうで御座います。面白いことには西洋人が是等の模樣を見ると、直に鼻の先きへ持つて來て香を嗅ぐ事で御座います。大概の西洋人は左樣致します。之は花と云へば直に香と云ふ事を[illegible]發して思はず鼻の先きへ持つて來るものと存じますが、之れでも西洋人が如何に植物性のものに對して趣味の深いかゞ判ります。先に申しましたビヤクランと申すのは大變に香の良い木で御座いますから西洋人の此の趣味を利用する爲めに扇子の骨に使ひまして、扇面には絹地に花鳥の刺繍を致したものを用ゐましたが、本國への土産物として大變好評で御座います。

それから針刺しで御座います、之は矢張羽二重に種々の刺繍が致して御座いますが、西洋人よりも日本から西洋へ參る方の土産に能くお持ちになります。

▲日傘 之は歐洲でも大分流行を致して居るさうで御座います、こちらでは羽二重で張りまして矢張り刺繍を致したのが賣れ行きます。

▲衣裳 西洋人の所謂キモノで御座いますが、之は以前には矢張り羽二重かカベ縮緬に花鳥の刺繍を致したやうなのが大變好まれまして、年々大分輸出も致して居りましたが、今では友禪縮緬の派手な模樣のものが好まれるやうになりました。

それから木綿物が西洋人に好まれると申しますのは、旅行や湯上りには輕くて寛かで大變に着心地が能いと云ふので、家でも用ゐますし、又避暑地に參る方は大概お持ちになります。

▲紋附 又漸次紋附の趣味が解されて參りまして黑羽二重の五ツ紋附き等を注文する方がありますし、着物から肌衣足袋下駄まで一切取揃えて呉れろいふ注文もあります、一式で八九十圓位、本國に歸られる西洋人は大概お持ち歸りになります。

▲帶 は御承知の通り、今まで羽二重のスゴキにフサを附けたもので、前で輕く結んで餘りを長く垂れるのでありましたが、近頃はシユチンの丸帶などを後方で奇麗に結び切りで、それは解きほどきをせぬやうにし、側の方でパチンなどでウマく止めるやうに致したのが賣れ行くやうになりました。

兎に角西洋人が近頃日本趣味を解釋致して參りまして、純日本式の物を好むやうになつたのは間違のないところで御座います。(三越店員談)

山階宮殿下御買上の光榮を賜ふ

新案登錄第二〇六三〇號

避寒必携

都はり箱

都はり箱は優美高尚體裁書籍の如くにして蓋を開くと中を圖の如くに仕切り其内に起伏伸縮自在なる絎け臺を取付け五色の絲は自働的に回轉し又はさみこてへら二つ折の物差しつま形袖形針差し指貫に至る迄の裁縫具が一切入れて有ります、御婦人方の旅行携帶に頗る便利で御孃樣方の學校御携帶に又は家庭教育用として貴婦人御令孃樣方の御買上げの榮を賜りたり尚年末年始の贈答品として最も適品なり又地方御土産には無類なり

送料 郵税市内四錢 內地十二錢 臺灣、樺太、清國、朝鮮 三十錢
代金引替十錢增 郵券代用一割增

定價
漆塗金蒔繪 特製 金貳圓五拾錢
同 上製 金貳圓
クロース洋本仕立 金壹圓
同上形(田シクケ臺木製ツマ)ソデ形尺ナシ 金七拾錢
神代杉金文字入上 金壹圓五拾錢
同 金壹圓

製造販賣店 東京市淺草區西三筋町四十三 安井都堂 振替東京二一五七六

特約販賣 三越吳服店、大西白牡丹、白木屋吳服店、百助商店、伊東屋玩具店其他各所に有り

●好評湧くが如く大歡迎●

洛陽堂發行圖書目錄

教育に應用したる 兒童研究 高島平三郎著 定價貳圓八十錢送料拾貳錢 菊版六百五十頁餘 天金箱入 總クロース

兒童を謳へる文學 高島平三郎著 定價壹圓 送料八錢 菊判三百頁餘

現代の傾向と心的革命 高島平三郎著 定價八十錢 送料八錢 四六判二百頁餘

女の心 附錄 嫁と姑 高島平三郎著 定價四十八錢 送料四錢 菊半截二百頁餘

地方青年團體 山本瀧之助著 定價六十錢 送料六錢 四六判三百頁餘

國民處世鑑 荒浪清彥著 定價五十錢 送料六錢 四六版二百頁餘

基督の青年訓 石川弘著 定價四拾五錢 送料六錢 四六版二百頁餘

實踐道德 簡易入門 西川光二郎著 定價四拾五錢 送料六錢 四六判二百頁

泰西名家の手紙 石川弘編 定價五十錢 送料六錢 四六判二百頁餘

少年飛行物語 柴田流星著 夢二畫 定價二十八錢 送料四錢 本文二度刷

殘されたる江戶 柴田流星著 夢二畫 定價七十錢 送料六錢 裝幀純江戶式

おめでたき人 武者小路實篤著 定價六十錢 送料六錢 製本洒脫二百頁

北條時頼遺書 人國記 志賀龍湖評註 定價五十錢 送料六錢 附選訓 三五判二百頁餘

地方青年の自覺 良民社編 定價三十五錢 送料四錢

惡人研究 西川光二郎著 定價五十五錢 送料六錢 四六判二百頁餘

良民講話 英雄物語 良民社編 定價三十錢 送料四錢

親と月夜 阿部信一編 定價送料共七錢 青年會員賞品又施本として最佳

明治百傑傳 山口孤劍著 定價五十錢 送料六錢 四六判二百頁餘

東京麴町二丁目二番地 振替東京二〇九一四番

洛陽堂

實用新案 複製形名 ミカド火のし

●圖の如く外部には裝飾兼用の風通し穴あり以て熱度の加減を自由ならしめ僅少の炭にて長時間使用し得る實用的至便の良器なり

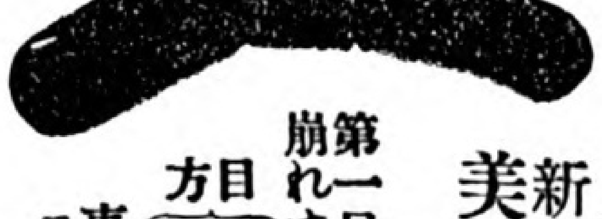
定價 甲 金一圓八十五錢 乙 金一圓三十五錢

實用新案 火のし臺

此火のし臺は金屬製にして御使用の節は是非必要の器具なり 甲卅錢 乙十六錢

●販賣所全國到る處の金物商店にあり

日本橋通油町 電浪一四六二 製造發賣元 石川商店



新案特許 パリーみやげ 束髮前髮心 美人印 ヘーヤロール

本品の特長

第一目方は極めて輕く形の久しく崩れずして堅牢なる事他に類なし

目方 大一尺五寸 三匁五分 / 中一尺二寸 二匁五分 / 小一尺 一匁五分

東京市神田區豐島町 コロツプかもじ製造元 田中金三郎

○全國到る處の小物店にあり(振東一八一八八)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年

衛生無害　天下一品

菱百正宗　賀茂鶴

東京日本橋區蠣殼町三丁目十二番地
發賣元　木村東京支店
電話浪花四一七五●振替東京一八五八六
●市内一升以上御注文は直ちに配達仕候
●市内各酒舖ニ賣捌仕居候

美顔用「シモンクレーム」
羽二重のように滑かに、薔薇の如く美しく、色を白くし艶をよくする

シモンクレーム

（佛國シモン會社製品）

三越呉服店を始め各地有名なる和洋小間物化粧品店にあり
日本代理店　横濱市山下町廿三番地　エー、ハイム商會

特許竹中式絲掛付絎臺

●年始御贈答最適品●
○御婦人方の新福音！

弊店發賣のくけ臺は御婦人方の毎日針仕事に綛糸を糸巻に巻き取る時に一々人様の手腕を煩はし其上に糸が亂れたり「ヨゴレ」たりするが如き不便更になく御使用後は「ヲリタ、ミ」も輕便で且つ針差しや尺度を自由に「シマイ」得る様に出來て居りますから一般の家庭用並に女學生諸君の學校用としては輕便此の上もありません。

使用法

此絲掛付絎臺は下圖の如く下部にある二個の絲掛車を絲の輪の長短に依りて「ネヂ」鋲を以て自由に「シメ」絲口を中央にある輪に通して絲巻にまく時は二個の絲掛車は自由に廻轉して他人のお手を煩はさす絲の亂れるが如き心配なく單獨にて容易に絲巻にまくことを得て輕便此の上もありません是非御試用を願ひます。

定價
特製　金六拾錢
上製　金參拾錢
並製　金貳拾錢
（御誂黒塗製　金廿五錢　美麗なる箱入なれば進物用に好適也）

◉製造發賣元　東京赤坂區青山南町二丁目十六
竹中商店
電話芝二八八四番　振替東京三二二三
市内は一本にても御一報次第無料配達す
地方は送料金拾錢を要す
◉特約販賣御望の方は御照會あれ

謹賀新年

專賣特許
吹留眞綿製作品

衣裳中入

衣裳中入用として使用輕便且徳用なるは吹留眞綿なり

定價
輕目　六拾八錢
並目　八拾錢
重目　九拾五錢

優美なる眞綿製作品

防寒用として肌さはり最もよきは日本國產眞綿にて製りたる當所製作品にまさるものなし

定價
薄製肌着　貳圓五拾錢
チヨッキ　壹圓五拾錢
腰巻　壹圓六拾錢

京橋銀座四丁目停留所前
大和屋綿店
電京一七七六

麻布本村一九〇
吹留眞綿販賣部
電芝三三五五八

各地各呉服店及綿問屋にて販賣致居候

模造品所々に有之候登録商標に御注意乞

專賣特許　植木式簡便哺乳器

謹賀新年

祈賢兒之健康

植木式完全消毒壜
植木式輕便防腐器

最便利　最精良　最廉價

各地有名ナル藥店ニテ販賣セリ
東京市神田區表神保町
乳呑器問屋
植木商店
振替貯金口座六二九一
電話本局三七五六番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年

きんとん
よせもの
つけあげ
日本橋區室町二丁目五番地
上鶴
電話本局三七二一番

皆様(みなさま)
今日(けふ)もまた丈夫(じやうぶ)で元氣(げんき)で心(しん)から愉快(ゆくわい)に
「暮(くら)す様(やう)」
「ゼムを今(いま)すぐ召上(めしあが)れ
消化と毒けし
ゼム
懐中良薬
口中香錠
到る所の賣藥化粧品店にあり

最上醬油
發賣元 日本橋區小網町三丁目廿七番地
濱口吉右衛門
品質優等ニシテ調理ニ適ス
釀造元 千葉縣銚子町
濱口吉兵衛

最上醬油之元祖
宮内省御用達
上
開業貳百六拾八年
釀造元 下總銚子町
濱口合名會社
振替貯金口座五〇貳壹番

謹賀新年
●東洋一製造大販賣 卸し小賣
●夜具蒲團類 綿ざぶとん
●街鐵、外濠、小川町東明館前に下車を乞ふ
諸官省御用
矢田本店
神田表神保町二
電話本局二〇一八番
市内無賃配達
●階上縱覽御隨意 珍柄高等品澤山有り
●綿質保險附●確實大勉強●正札引なし

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂
持阿彌

苟も美容たらんと欲する諸姉は先づ
ラーロラ
BEETHAM'S
La-rola
を愛用せざるべからず
此化粧用美容劑は冱寒々風硬水に堪る様皮膚を保ち凍症、ヒビ、アカラ顔アレ等を防ぐに最も妙にして且皮膚を柔かく滑かに色白く若々しくす四季を通じて用ふれば常に美しき細膚を保ち得らるべし
M. BEETHAM AND SON.
CHELTENHAM, ENGLAND.

製造所 英國セルテンハム、エム、ビーサム、エンド、サン商會
各地著名の化粧品店にて賣捌く

東京市日本橋區通一丁目
合名會社森村銀行
電話(特)本局六七三番 電話本局四九八番
定期預金 六ヶ月 年五分
當座預金 百圓に付日歩七厘
特別當座預金 同日歩一錢一厘

嫁入道具
大伴ゑびす屋
京都高辻高倉
電二五八〇

年始御進物勅題柄色々
ゑり善ほりまき
(東京日本橋堺町通りふきや町電浪一二七〇番)

吉岡向陽氏 高野瑠山氏共編
家庭お伽文庫
一月元旦發行
大石内藏之助
實價拾錢 送料二錢
東京日本橋 春陽堂

皮膚病 梅毒 りんびやう わきが 生殖器諸病 ぢ
東京淺草瓦町廿八 朝八時より九時迄
中央醫院

皮膚諸病 梅毒 りんびやう 消渇病 田蟲症等
血の道 子宮病 月やく とまりたる病 子なき婦人
にきび 色の黑き人
そばかす あれ 生殖器諸病 神經衰弱症
遺精 精夢 早漏 分泌 不充 減衰 育 記憶力 衰
陰萎 發生 わきが
▲病状を記し郵劵四錢を送れば其病を速治する專門醫中央醫院長處方の特効新藥説明書を送る
東京淺草瓦町廿八 瓦町電車停留場横
中央藥院

醫院案內

日本橋區

◎謹賀新年
◎齒科診療
日本橋區龜島町一丁目三七(地藏橋より約一丁)
順天堂齒科醫院
靜岡縣富士郡吉原町西本町役場隣
順天堂出張所

日本橋區濱町三丁目七番地
電話浪花一六〇番
濱町産科婦人科病院
院長醫學士小林八十七
醫學士大瀨貴明
醫學士佐野綱次郎

◎內科診療
午前宅診 午後往診
入院隨時
日本橋區松島町(松島稲荷前)
醫學士竹村正
電浪三七六六番

神田區

入院診斷後應
松田、林、蜂間、三副長は目下當院に在勤
八八八(病院用)(電本)
八九八(私宅用)
東洋內科醫院
東京市神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋南
院長醫學士高田畊安
相州高座郡茅ヶ崎町海濱從停車場半里
南湖院
電話ちがさき二番
河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
但院長渡歐中副長代理す

小兒科
神田區元柳原町四十番地
(須田町或ハ和泉橋ヨリ約一丁)
醫學士尾形茂樹
電話本局三六三六番

內科一般
東京神田區美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診
板垣亨
電話本局貳千九百七拾番

耳鼻咽喉科
神田區美土代町一丁目十六番地
醫學士榊田義衛
電話本局三一九〇

婦人科
産科
乳兒科
神田區材木町二十三 二十四番地
醫學士高橋政秀
電本三七八九番

芝區

◎産科婦人科
芝明船町十九虎門外
電話芝二六四二番
櫻井克巳

齒科診療
毎日自午前八時至午後五時(但シ十五日廿八日休診)
芝區烏森町一番地
石川齒科醫院
電話新橋一九二〇

麹町區

産科婦人科小兒科
鷲山改姓
女醫吉岡彌生
診察院長 毎日八時より
時間醫員 毎日三時より
病室及産室の設けあり入院隨時
東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院
電話番町二二五七

內科診察 宅診午前及夜間九時迄 往診午後
麹町區四番町四番地(電話番町貳三八四)
醫學士中山敏樹

醫學博士榊順次郎
醫學士久保徳太郎
醫學士田代謹二
醫學士石塚保吉
毎日午前診察
日曜水曜午後婦人科的外科
火木土曜日午後泌尿器病及內科
水土曜日午後小兒科
●施療火木土午後自一時至二時
●施療姙婦産婦ヲ取扱フ
婦人科産科榊病院
麹町區三番町三三(電話番町三〇三三)

淺草區

內田病院
淺草區新福井町二(元町電車停留場際)
病院落成に付隨時入院の需めに應ず
小兒科専門
院長醫學士內田愼太郎
(午後診察)副院長醫學士瀧原五郎
電話(下谷七一八事務用)(下谷四六六病室用)

京橋區

◎院長ドクトル木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話京橋一六七〇)
婦人科産科
木村病院

赤坂區

小兒科
赤坂區溜池、榎坂町一番地
岡部環
電話芝三七九九番

小兒科醫學士石塚保吉
赤坂區青山南町三丁目
電話芝三四七四番

腦神經精神病
院長ドクトル齋藤紀一
醫學士望月温象
在獨逸田澤醫學士
東京赤坂青山病院內
帝國腦病院
電話芝二七四五 芝二六六五 芝三四〇六

下谷區

産科婦人科天本醫院
下谷區仲徒町二丁目卅五番地
院長(入院隨意)醫學士天本治
(電話下谷二六六九)

四谷區

小兒科醫院
本院 四谷區西信濃町十四番地(電話番町八七四)
宅診午前中 入院應需
院長醫學士川村正
副院長醫學士川村信一
分院 芝區西久保巴町四十五番地
宅診自午後二時(電話芝二〇八六)

小石川區

○婦人科○産科
飯田橋電車停留場脇
中島襄吉

◎産科 婦人科
◎內科。小兒科
小石川西江戸川二六
電話番町(一四二六)
森種太郎

牛込區

産科 婦人科
小兒科
牛込區納戸町三六
電話番一〇四〇番
野中醫院

本郷區

…(診察時間)…
○産科、婦人科 入院應需
月、水、金午前 橋爪病院(日本橋區龜島町一の廿九)(浪花二六〇番)
毎日二時ヨリ五時迄 自宅 本郷區眞砂町十五番地(下谷二四八七)
醫學士橋爪哲造

府下

腦神經精神病科
東京龜戸町電話浪花二五五二
加命堂腦病院

謹賀新年
愛國婦人廣告取次所
東京市京橋區南紺屋町一(イロハ館) 一星社
同 神田區三河町一ノ一九 博報堂
神戸市元居留地仲町 東洋廣告取次會社
東京市麹町區八重洲町一ノ一 東洋廣告取次會社支店
東京市京橋區南槇町七 大興社
同 京橋區宗十郎町一七 正路喜社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一月の御用命

○新柄ヲヴァーコートの御新調
○縞御召、好貴織の御撰擇
○御題模樣小間物の御買上
○サーキユラーケープの御注文
○修整一時間寫眞の御撮影
○防寒シヨール帽子の御用命

謹賀新年

東京日本橋
白木屋呉服店

地方御在住の御方樣
本年より通信販賣課の業務益々擴張致し御便利相計り可申候得ば倍舊の御愛顧御注文の程奉願上候

謹賀新年

三越呉服店

林田式洗米器

謹奉賀新年

内務省衛生試驗所御試驗濟
大藏省釀造試驗所技師御試驗濟

家庭用洗米器は畏くも各宮家に御買上げの榮を蒙り其他大隈伯爵家並に村井玄齋氏及び其他知名貴顯紳士の臺所には既に本器を採用せられ且つ弘田、瀨川、中瀨諸博士の賞讃を辱ふし旅館料理店は勿論飲食店、菓子舖等に需用せらる

家庭用洗米器特長

一、衛生上利益　本器は塵芥汚物は上部の窓口より排泄し小砂利石粉(即混砂)を下口より流下せしめ其他手首若しくは爪間に附着せる垢を混ずるが如きこと無く又此器を以て磨ぎたる飯米は容易に腐敗する事なし

二、經濟上利益　本器は洗米上時間を省き壹分間に能く壹斗五升の米を洗磨し米粒の粉碎することなく又無益に流棄することなし

三、使用上便利　本器は米麥を洗滌しつゝ程能く混合し得るの便あり又冬季間手を冷水に浸さず洗米し得れば更に皸(あかぎれ)等の患なし

四、使用法　本器は上部の採手を取つて右方に數十回回轉すれば直に米を目的の如く純白に磨ぎ上げる最も簡單なる仕方なり

定價
家庭用　五升用　金三圓五十錢 (外に荷造費金四十錢)
家庭用　二升五合用　金二圓五十錢 (外に荷造費金二十五錢)

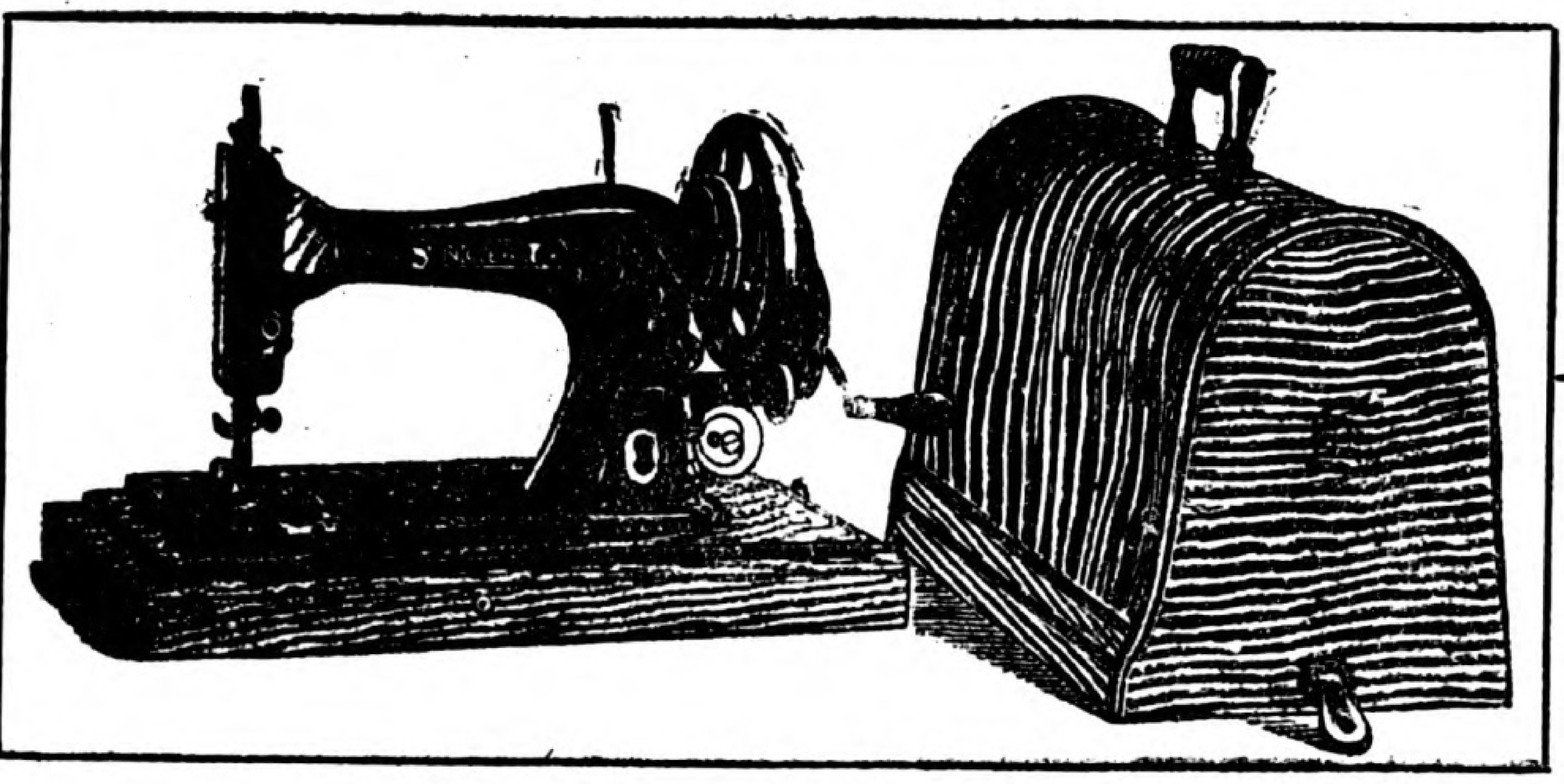
東京市牛込區西五軒町三十四番地

製作所　㊉　林田商會

電話番町一、三一八番
振替貯金口座一七、〇三番

本器御注文の節は電話又はばがきにて御一報次第市内は店員持參御試驗に供すべく候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



壹週間の無料御試用
熟練なる女教師の無料教授!!

……右は弊社より申出でたる條件

顧客様方はシンガーミシン一臺を即時御家庭まで配達すべき御註文さへ下さらば夫れにてよいので御座います

手附金は不用で御座います

機械は無料にて送り屆け致します

シンガーミシン一臺で裁縫全部をあそばす大經濟を成程と御承知なさるにはシンガーミシンを實際試めして御覧なさるに限ります

全國に分店が御座いますから御註文は御最寄の分店にて早速計らいます

重なる分店は

東京市銀座通尾張町（電話新橋三四六六）
大阪市心齋橋筋二（電話南九九六）
京都市三條通り柳馬場
神戸市北長狹通五丁目
横濱市馬車道通（電三二五八）
札幌區南一條西五丁目
名古屋市西區玉屋町
廣島市細工町
福岡市橋口町
仙臺市名懸町
金澤市下堤町
其他各市各町にあり

横濱市山下町二十三番地
シンガーミシン社日本中央店

愛讀者諸君へ謹告

▲新聞の代金は壹部金錢五厘壹ヶ月七錢であります。此代金は四月、七月、十一月の三回に御請求致します。其の手續きは郵便はがき又は集金人を差出します。其外都合に依りては郵便局に委託し請求致す事もあります。此の代金を御送りにな 一番安全確實で、紛失や未着の恐れもなく其上郵便賃もいりませんから御便利でございます。但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一錢必らず御添へを願ます。

▲[illegible]の御方には當所から[illegible]日の御参考に御保存願ひます。

▲郵便切手で御註文又は御送金の節は必らず一割増に願ひ上げます。

▲愛國婦人發行所の振替口座番號は毎號新聞東京一一三八一番であります。

▲お手紙の御住所御姓名は明瞭にお認め下さい御轉居の節は、必らず新舊御住所御認め願ひます。

愛國婦人發行所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新年
LACTAGOL

無乳産婦の福音！

本品は「ベックマン」博士に據りて報告せられたる無臭美味毫も副作用なく蛋白質及脂肪質の多量を含有せる乳汁を分泌せしむる新藥にして本邦に於ては「ドクトル千秋雄蜷郎氏」に據りて既に二十六人の産婦に試用せられ其症に據りては服用の初日に於て効能を發揮し他の場合にも七八日間連服せしむれば完全に奏効す（用法容易）「ドクトル千秋氏」の報告印刷物御要求に從ひ無代進呈す

一日用量十五瓦にして百瓦入壹函代金參圓也

東京市日本橋區本石町三丁目
藥種問屋　中村瀧次郎
電話本局{長八六九番 三五六九番}
振替貯金口座東京九四三番

新年大附録　二十四時家庭双六を添ふ

婦人世界

正月號　定價拾五錢　郵税二錢

◎現代の美人は誰か（跡見花蹊　高橋義雄　江木榮子　棚橋絢子）

九年目に親子の再會……北村美那子

女學生と歌留多遊び……下田歌子

勅題髪の結び方……（關口ぶん　伊賀とら）

歴史講談「春日局」……風谷

をりをり草……村井弦齋

○衣服仕立直しの新工風
○急場の時の即席料理
○生花を習ふ西洋人
○古今名歌松上鶴
○お正月の總菜

▲小説『子寶』……村井弦齋

櫛笥のうち……與謝野晶子

川柳夜話子年の春……春日野

勅題見立新料理……石井泰次郎

○名家の年賀状
○古今名人の逸話
○女三人よれば姦し
○着物は着方で美しい
○餅の食べすぎと數の子

千島の雪中に迎へた正月……郡司璽代子

新婦人國記其一熊本出身の婦人……薛川漁郎

◎見合ひの實驗（九山代議士、小久保代議士、巖谷小波、石黒男爵、原蕭柿、宮田修、櫻田學士、堀越善重郎）

東京京橋區南紺屋町十二
實業之日本社

最上醤油

謹賀新年

於日英博覽會

賜名譽大賞牌

到る所の酒醤油店に販賣す

下總銚子港
醸造元　鶴屋吉兵衛

謹賀新年

皆々様の御健康を祈上候
本年も不相變御愛顧の程願ひます

子供衆に唯無意味な玩具を當てがうは、甚だ危險の事と存候此邊に注意怠らず精撰したるもの丶みを澤山に持合せ居候間何卒御引立奉願上候

東京銀座三丁目
伊東屋玩具店
電話新橋二五二三番
振替口座二〇四四五番

創立明治九年
資本金　五百萬圓
積立金　參百參拾萬圓

東京市日本橋區小舟町
株式會社　第三銀行
電話浪花{四二 三五〇七 三七一 五六七〇}

監督　安田善三郎
頭取　安田善四郎
營業部長　清水虎吉

謹而賀新年

京都市四條

呉服店

電話上長三三五番　振替口座大阪五五二七

POPPCEA
高等化粧品製造所
PAPIER POUDRE, Ltd.
London, England.

英國倫敦パピーアプードル商會製造化粧品は日英大博覽會に於て金牌を受領せり
ポピーア、ルーズは顏色を眞正のバラ色となし擦するも剝げず如何なる柔肌にも衞生上無害にして何時御使用あるも差支なし當商會は此外ポピーア、プーヅル。ポピーア、マツリンハイジーア。ポピーア、クリーム、プープル及其他の化粧品類一手製造販賣す
日本一手販賣店橫濱山下町七拾六番○
ベーリツク兄弟商會

付近までも遠方よりの送料は負擔しますから御遠慮なく
と同じ安い工賃です
新柄は御注文被下度早速御返報申上ます
遠方より御取引御便利販賣
營製染內送呈

一、美術模樣入各種染
一、本檳榔子黑染
一、友禪染
一、小紋染
一、堅牢諸色染
一、各種旗染
一、古物染替悉皆

其他染物一色

京都市油小路五條上ル
野村萬次郎商店（振替口座大阪九四八六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

橋本救世丸と胃腸病

赤十字院長 橋本子爵

赤十字院長橋本子爵の救世丸は最上の消化錠劑なり如何に頑固なる慢性胃腸病と雖も必ず全治す、最强の殺菌劑なるが故に肺結核病に最も有効なり、卓絶なる滋養劑なるが故に牛乳其他の滋養劑に勝り病後の衰弱に最も効あり

岩佐壯婦丸と婦人病

宮内省侍醫 岩佐男爵

宮内省侍醫岩佐男爵の壯婦丸は從來の陳腐なる漢法藥に非ず最も有効なる貴重藥にて調製し子宮病月經不調氣爵動氣、逆上、腰痛、産前産後ヒステリー等婦人諸病の良藥なり、又めまい、頭痛、不眠、秘便、神經衰弱等には男女共に偉効あり

○救世丸壯婦丸は愛國婦人會總裁閑院宮妃殿下を始め奉り各宮殿下の御嘉納あり又た陸軍省兩本願寺等の御用藥とした我國有史以來未曾有の名譽を辱ふしたる此の一事を以て尋常一般の賣藥に非ずして最も確實に最も有効なる事を證す得べし

○藥價兩劑共拾錢參拾錢七拾錢壹圓參拾錢壹圓八拾錢○効能書贈呈

○本劑は本舗又は愛國婦人發行所に於て會員諸君には一割引にて御取扱申可候

本舗　東京深川公園　合資會社 福井堂　電話長本所五六九番　振替東京二三六六番

謹賀新年

御料 御園白粉

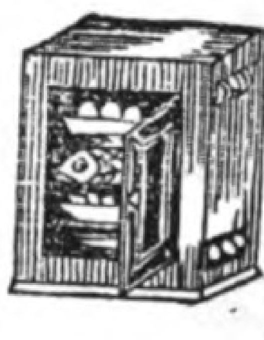
御園白粉はやんごとなき御方々の御料に召させ玉ふ本邦唯一の化粧料にして專ら實質本位の製法に苦心を重れ取分け皮膚の衞生に留意し容器及体裁を飾らず一切の冗費を白粉其物に集中して弘く化粧界に貢献せん事を期せり。

御園白粉は純無鉛製にして殺菌消毒を施したれば安全此上なく永久の保存さ陽氣の變遷に堪へ効能の變ろ事無く濃淡自在乘りよく伸びよく斑点なく附き肌を透して自然の生彩を現はす事化粧界の記錄を破りたる摸範品なり。

- ねり装　御園白粉
- 水白粉　御園の月
- 粉おしろい　御園の花
- [illegible]白粉　御園なでしこ
- 濃厚化粧水　御園四季の花
- 高尚化粧水　御園の露
- 濃化粧下粉　御園の蕾
- 洋風化粧下　御園クレーム
- 高尚香水　御園香精
- 御化粧香水　御園の橘
- 高尚防水油　御園香油
- 高尚はみがき　御園齒磨

製造本　伊東胡蝶園　發賣元　丸見屋商店

特許 名和式テンピ



嘗つて婦人世界誌上に於て弦齋夫人の料理中其の効用を稱せられたる和洋兼用テンピなり

定價 大二圓七十錢 中二圓廿錢 小一圓七十錢

説明書及商品目錄御申越次第送呈仕候

東京日本橋區蠣殼町二ノ十五 名和商店
電浪一一七七
振替一〇二五四番
支店 神田和泉橋通り松永町十八

謹賀新年

別染めりんす友染
珍柄秩父めいせん
其外絹綿交織反物

東京人形町通よし町
赤のれん
おむなや本店
電話濱四三四五番

向ふまへ
おむなやめりんす店

謹賀新年

畏きに村井弦齋先生の賞讃を博し今又内省御買上の光榮を得たる

衞生に注意の男女方は彼れ是れ迷はずにみやけ油を御用ゐなさい模造品四方にあれば長髪美人商標と東京人形町みやけ油本舗製に御注意信用ある店に販賣す

長電浪花六二〇番
振替口座東京八七五番

登録商標 有名なる ハカマヤ

徳實懇切なる專業店裁縫巧妙なる特技を有し皇國善美の理想的實用品を廉賣して善く袴の親玉と無限の信用を賜わりたる光榮は是皆天下の諸氏が御愛顧の餘澤と偏へに其恩眷に酬ひん事を期し居候

東京神田小川町 影山袴専門店 電本三八二六番

謹賀新年

舊年は一方ならず御愛顧を辱ふし奉謝候尚本年も御引立願上候

愛國婦人發行所廣告取扱 黑田隆一

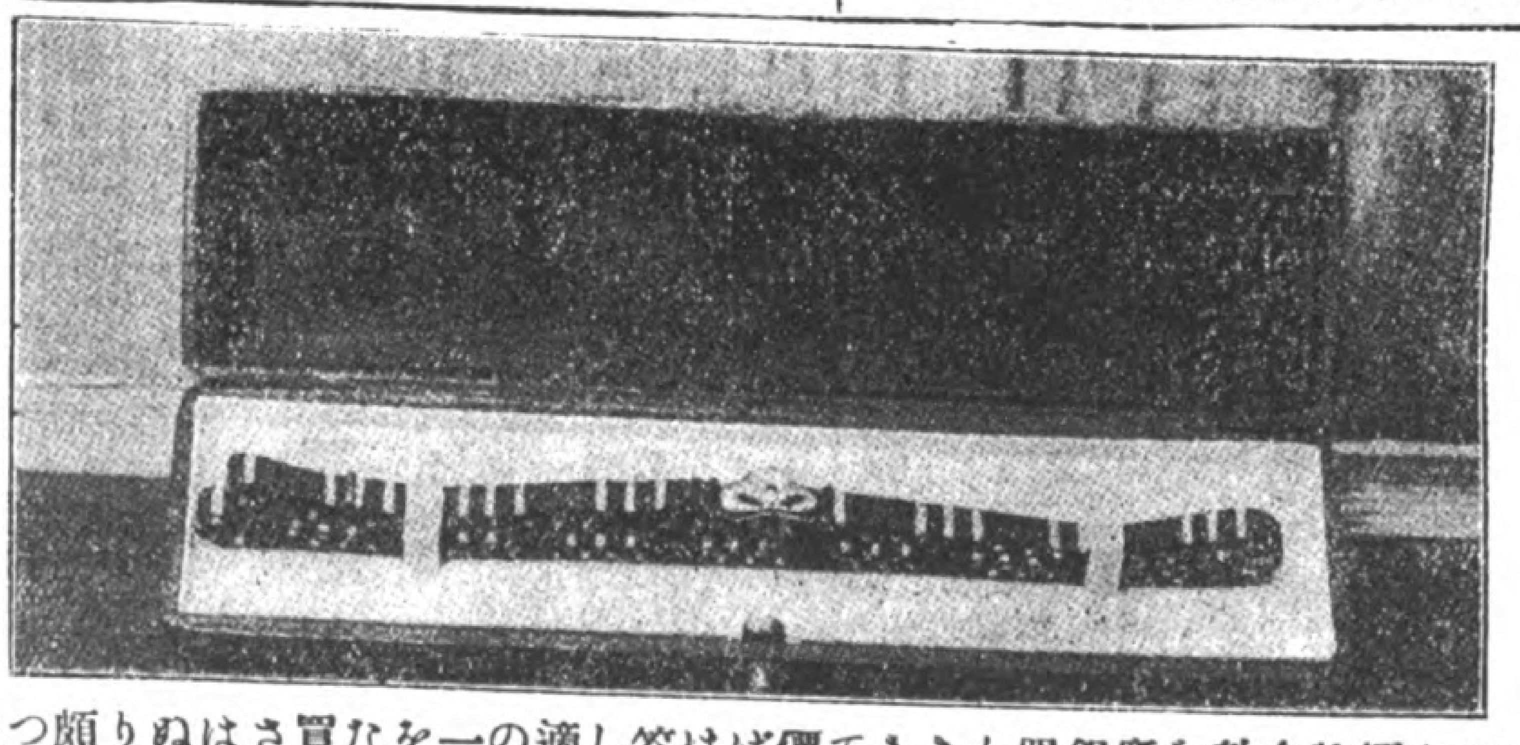
きばつ模様半ゑり發賣

總本舗 神田區表神保町壹番地 赤のれんえり店 電話本局二八五三

出店 新橋博品館階上

著名なる呉服店、半ゑり店、組糸店に販賣致し居候

意匠新案 きばつしめ



きばつしめは鹽瀬羽二重、繻珍、織物の軸に今年の御勅題模樣を金物に應用し金銀赤銅象眼入りにして頗るきばつのものなりて而も其價廉なれば御需用は勿論贈答用品として最も適當のものなり一度現品を御覽になれば御買求めなさらずにはいられぬものなりと云ふ頗るきばつな弊店自慢の品なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新婦人

第二年第一號　一月一日發行

新年大附錄

附錄 家庭日誌
溫度表　晴雨表　來客簿
獻立表　舊曆九星附

見るもの

鼠啼き　濃婉目を眩し（極彩色）……川村清雄筆

鶯語　瑞祥堂に充つ……橋口五葉筆

書俳三味（木版摺十種）　間關として媚めかしく……齋藤松洲筆

春の女（木版摺十種）　溫柔境裡春色深し……鰭崎英朋筆

嬌聲相鬩ぐ　名媛相肩摩し　美姫相轂擊す……コロタイプ寫眞

皇太子妃節子殿下　小松宮頼子殿下　二條公爵令孃敬子姫　馬上の江木欣々女史　比志島中將夫人　山縣總監令孃すみ子姫　福島浪藏氏令孃松子孃　鎌倉吉水ちゑ子孃　大村久雄氏夫人恒子　宮崎光太郎氏夫人匂子

岡田制勝氏夫人敏子　篠田多賀子孃　谷川雪子孃　來馬祖道氏令孃靜江孃　田口てふ子女史　伊東子爵令嗣夫人近子の方　西川いね子孃　志賀重昂氏令孃鈴江孃　吉田朋吉氏令孃光子孃　田口邦子孃

新女醫岸本露子女史　岩谷松藏氏夫人政子　恩田まさ子孃　清水福松氏夫人　森川源次郎氏夫人菊子　德田大軍醫夫人糸子　河部法學士夫人玉江子　水上貫一氏夫人たづ子　今尾掬翠氏夫人愛子　閨秀書家渡邊碌琴女史

鈴木裁縫店主鈴木濱子　京都北尾はつ子孃　大西のぶ子孃　市川鯉水女史　其假裝　女優葛城文子孃　栗島氏令孃菫子孃　京都女優巽糸子孃　帝劇女優音羽かね子孃

模範かるた

讀の部百枚　取の部百枚　破天荒の提供

四六倍判　用紙美術紙　紙數二百頁　一冊金廿八錢　郵稅二錢五厘　六冊一圓七十錢

讀むもの

男は可愛いもの……田村とし子

女子の見たる男子の性格……平塚明子

婦人禮服改良論……森律子

生殖者としての女性　大阪高等醫學校教授　田中祐吉

松は瑞木か凶木か……本多林學博士

江戸の春……戸川殘花

松竹梅……白井理學博士

江戸の正月と女……岡野知十

美はしい初春の女……尾島菊子

新年に於ける小兒の衛生……杉田鶴子

女の歩きぶり……薄田斬雲

掛聲なしの長唄……鰭崎英朋

女の名前と聯想……泉斜汀

婦人と生命保險……楠秀太郎

雪に配合された女……宇賀野浦子

初夢と寶船……石橋臥波

今年流行の色……鈴木濱子

黄楊櫛製作の苦心……白賀磯子

芝居は常世の春……柳川春葉

發行所　東京市本郷區龍岡町三十四番　振替東京三〇五八　電話下谷一六七二●下谷四〇七九　聚精堂

賣捌所　全國各地到る所の書林雜誌店

明治四十五年一月一日發行（每月二回一日、十五日）（定價金三錢五厘一ヶ月金七錢郵稅不要）廣告料一行金六拾錢　發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人竹内貞三　發行所　東京麴町區飯田町　愛國婦人發行所　●電話番町千七百四十五番　●同五百二十番　印刷所　東京市小石川區久堅町　博文館印刷所　●振替貯金口座東京壹三八一番

愛國婦人廣告取扱
京橋區宗十郎町一七　正路喜社
愛國婦人海外廣告一手取扱　神戸市元居留地仲町三八　東洋廣告取次會社
京橋區南紺屋町一　一星社
神田須田町廿七　金蘭社
京橋區廣告社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附錄 愛國婦人會會報

本部記事

●彙報

▲理事會　去る十二月十三日(第二水曜日)午後一時より本部樓上に於て理事例會開催、會長伯爵夫人阿部篤子、副會長男爵夫人濱尾作子、三輪田眞佐子、男爵夫人關郁子、古市幸子、高木鎮子、山脇房子、前子爵夫人丹羽花子等の諸氏出席され、種々協議ありたり。

▲第十一回總會準備委員會　去る十二月十三日第十一回總會準備委員會を本部樓上にて開催し、總會の場所、時日、記念品等に就き協議ありたるが、當日出席の委員は、前項理事會出席の諸氏の外、子爵夫人戶田時子、岡田德子、佐方鎮子、下岡松子、仁杉歌子の各委員諸氏なりき。

▲評議員　豫て每月第四水曜日を定日とする評議員會は年末に際するより定日を繰り上げ去る十二月二十日を以て開催し、明治四十五年度收支豫算の件其他に就き種々協議ありたり。

▲討伐隊慰問袋　其後應募の分左の如し。

一金六十四圓(外現品一個)　香川支部
一金十二圓二十五錢(追加)　奈良支部
一現品五百四十二個(臺灣支部へ直送)　三重支部

累計金七十六圓廿錢と現品五百四十三個
計金五千百八十五圓八十五錢
外に現品千八百七十六個と消心丹二百包

▲秋田支部授產事業開始

愛救六二號

客月三十一日愛秋發第二三七號を以て御稟申相成候軍人遺家族授產事業開始の件承認致候此段申進候也

明治四十四年九月十一日　會長名

秋田支部長宛

愛國婦人會秋田支部授產場規則

第一條　本授產場は陸軍海軍戰病死者の遺家族廢兵及廢兵の家族を收容して產業を授くるを以て目的とす

第二條　產業の種類は當分の內左の一種とす

一、組紐製作(羽織紐帶締の類)

第三條　遺家族及廢兵は其希望に依り年齡の如何を問はず業務に堪ゆるものは之を收容す

第四條　器械取扱に經驗なき者には每日一定の時間に於て懇篤教授するものとす

第五條　就業時間は十時間とし日の長短により其時に之を定む

第六條　休暇日を定むること左の如し

一紀元節、一天長節、一地久節、一每年十二月二十六日より翌年一月三日迄、一每月一日、十五日

第七條　收容者の給料を日給及工料給の二種とす

日給は技術が熟せさる者に給し工料給は既に習熟したる者に給するものとす

第八條　初めて斯業に從事し未た毫も經驗なき者には一日日給拾三錢を支給し漸次習熟するに從ひ增給するものとす

但傳習所內に寄宿を希望するものあるときは本項の日給を以て食費の實費に充つるものとす

第九條　前條日給者にして習熟し相當の給料を得るに至れは之を工料給に變更すへし

第十條　工料給は製作工賃を一定し其出來高に應し支給するものとす

第十一條　給料及工料は每月一定の日に於て計算支給するものとす

第十二條　敎師及助手を置き敎師は品行方正技術熟達なるものを雇聘し助手は收容者中の優等なるものを撰拔して之を命すへし

第十三條　敎師及助手は丁寧親切を旨とし懇篤指導の責に任し兼て製品の成績を監查し決して公平を缺き若くは偏頗の行爲あるへからす

第十四條　收容者には每月其額を定め貯金を成さしむるものとす

第十五條　戰時事變中出征若くは應召したる陸海軍人の家族は其戰時中又は事變中第三條に準し收容するものとす

第十六條　軍人遺家族及廢兵並に其家族にあらさるものと雖も事業熱心の希望者は之を收容することあるへし

第十七條　第八條の日給は給與せす初めより其出來高に應し工料給を給するものとす

但し左の各項に該當するものには相當賞を與ふへし

一、業務勉勵品行方正なるもの

二、一ケ年皆勤者にして每朝就業時間前に出勤するもの

第十八條　收容者中品行不良又は成業の見込なき者は退場を命することあるへし

第十九條　本授產場には收容者の住所氏名生年月日軍人續柄を詳記したる名簿を備置くへし

第二十條　本授產場經費は特別會計とし左の帳簿の外必要の補助簿を置き整理すへし

一現金出納簿、一財產目錄、一總勘定元簿、一收支豫算簿、一物品出納簿

第二十一條　金品の收支は正當證書により支部長の決裁を經て取扱ふへし

第二十二條　現金は銀行又は確實なる方法に依り當座預けとすへし

第二十三條　本授產事業成績及金品の收支は每年調書を作成し翌年一月十五日限に本會長に報告すへし

第二十四條　前條の外事務に關する細則は別に之を定む

愛國婦人會地方職員各位

同　會員各位

新年の嘉慶萬里同風芽出度申納候、先以て各地職員並に會員の君達には益々御健勝御加齡の段欣喜の至りに御座候、われ等亦一同無事新春を迎へ候まゝ御心やすう思召され度候。さて、我愛國婦人會も歲を逐ふて益々盛況に相趣き、會員も已に八十萬人を超へ、同時に基礎も愈堅實を加へ、又諸種の事業も漸次整頓致し候、是れ全く總裁宮殿下の厚き思召を體して、各位が能く其の實行に勉められたる結果に外ならずと存候、されど、本會の前途は尙逖遠なれば、將來益々互に事情の疎通を圖り、一致協力以て會務の發展に努め申度候、先は新玉の御祝詞まで、めでたくかしこ。

明治四十五年一月一日

愛國婦人會

會長　伯爵夫人　阿部篤子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
理事　三輪田眞佐子
同　有島幸子
同　棚橋絢子
同　男爵夫人　關郁子
同　古市幸子
同　高木鎮子
同　山脇房子
同　前子爵夫人　丹羽花子
監事　山本たほ子
同　高橋壽々子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●幣原博士の報告

左記は、本會教養所長文學博士幣原坦氏官命を帶び歐米各國を漫遊さるに當り本會より各國に於ける婦人界の狀態、婦人會の事業其他に付き調査を囑託したるが愈去る十一月三日歸朝されたるにより今回其齎し歸られたる調査事項を理事並に評議員に報告されたるものなり。

私が昨年歐米各國に差遣されました時に馬屋原事務總長から世界を廻るならば各國に於ける婦人會の狀態を視察して來て與れ、又婦人會の事業に就て參考になることがあつたならば、齎らし歸るやうにと云ふ御話があつたのであります。そこで、私も事情の許す限り、其方面を視察致しました次第であります。

さて、婦人會の御話を申上げる前に、先づ歐米各國の婦人狀態の一斑について所感をざつと申上げて、それから會の話に移りたいと思ふであります。

皆さん御承知の通り、歐米の婦人に就て、一番吾々に羨ましく思はれまする點は、體格の強健なることであります。先づ姿勢から致しましてもシヤンとして居りまして、總ての行動が敏活であります。それから見ますると、我邦の婦人は稍々見劣りがせられはせぬかと思ふのであります。體格の良いとか、強健とか云ふ點に於ては吾々實に羨ましく思ひますけれども、大事な點に於て歐米の婦人に不滿足の感を起さゝらんとするも止む能はざることがあります。それは何かと云ふと婦人らしき婦人と云ふものが我國の如く多くない。そこで英國に參りましても、米國に參りましても、婦人らしき婦人の要求がなか〳〵起つて居るやうに聞きました、此點に於ては、吾々は我邦の婦人の温良貞淑に滿足せねばならぬと思ふのであります。そこで、日本婦人の歐米に於ける評判は頗る良いのであります。

即ち、日本の婦人はしとやかである、おとなしい、犧牲の精神に富んで居る、かやうな評判が歐米に於て聞こえるのであります。芝居にしましても、日本の婦人が舞臺に現はれまする時には、犧牲的方面を代表して居る。自分の亭主が惡いことをして、それを諫めても聽かない、遂に其の細君は死んで了うと云ふやうな調子であります。又歐米にては社交が盛んであります爲めに動もすると華美奢侈の風が婦人の中に行はれて來るのであります。現に英國に居りました時にも英國婦人が斯ういふ話をして居りました。交通機關の發達と共に我邦に外國の贅澤品が盛んに這入つて來る。どうかして之を防遏したいものですと、かやうなことを聽いたことがあります。日本でも「上等舶來」と云ふ言葉さへ出來て居て、外國の贅澤品を尊重することを追懷しまして、耳が痛く思ひました。併し西洋婦人の奢侈に比較したならば、日本の婦人は未だ腐敗して居ないといつてよいと思ひます、併ながら更に歐米の社界の裏面を見渡ますると、各國の婦人も亦儉約に注意して居ることは顯著なる所であります。巴里の婦人は隨分贅澤ばかりをして、洒落ることばかりに憂身を窶して居るやうに見えますが、併しそれは或一部のもののみであつて、普通の家庭に這入りましてその狀態を見まするに、非常に儉約であります。即ち甲の着物の冬物を仕立直して乙の人の夏衣にするとか、或は同じ着物を染直し仕立直して着るといふやうな工合であります。成程家庭に於て斯くの如くに儉約をして居りまする爲めに、普佛戰爭で何億と云ふ償金を獨乙から取られましても、直に之を拂ひ得た所以が知れるのであります。又もつと驚きましたのは、伯林に居りました時に一番盛んなる街、即ち「フリードリッヒ」街で中食をしながら其街を通る人を見て居りました。すると私と共に往つた人が、前を通つて居る婦人の樣子について何か思ひあたる所がないかといひますから、一向分らぬと云つて居りましたが、其の人のいふには、此一番盛んなる街を通る婦人ですらも絹物を着て居るものがない、木綿物か然らずば毛織のやうなものを着て居る、絹物は獨乙に於て着ない、又婦人の手に嵌つて居る指輪、胸に輝いて居る貴金の鎖、之も悉く十四金以下である、十四金以上のものは獨乙に於ては禁じて居るのである、十四金以上のものがあつたならば、それは輸出物であるといふ話を致して居りました。

又英國に居りましたときに、英國婦人について感じましたことは、家庭に於て細君が確かりして居ることであります。先刻申しました通り、體格もよい上に談話は明瞭であり、子供を統御する狀態が如何にも感服であつて、さうしてどんな話をしても話が出來るのであります。そこで何となく、健全なる國の基礎が家庭に於て現はれて居ると思はれた次第であります。

漢堡で或る教授の家に招待されて往きました時の如きは、奥さんが出掛けてきて燈りを點けたり色々の世話をしてくれるのでありましたが、何となく我國に歸つたやうな、日本の家庭を見たやうな感が起りまして、甚だ愉快に感じました。要するに質朴穩健と云ふことに思ひを致さなければ、一國の富强は期し難いと云ふことを、外國の家庭を見るにつけて、一層深く感じた次第であります。

又婦人の位置でございますが、歐米に於きましては、婦人の智能が一般に高まつて居るから、往々、男子よりも婦人の方が智能が發達してゐる。なぜと申しますれば、學校を卒業するものは男子も女子も同じで、其卒業後は男子は職業に就くとか、外國に行くとか云ふことになりますが、女子の方でありますと、どうも男子のやうに直に荒い仕事も出來ない、矢張り家庭に居殘りて家を持つ下地でもして、其の餘暇には書物を讀みます。讀書の習慣は學校を出ましても矢張り續いて行く。そこで男子より女子の方が智識が發達して行くことが多いのであります。又婦人尊重の風の盛なるはいふ迄もないのであります。殊に米國に於ては非常なものであつて、其の中流以下の婦人の態度は男優りで御座います。この風が又婦人の位置に關係を有して居るのであります。尙その外に英國の如きは殖民地を澤山持つて居りまする爲めに、男子は其の方へ赴き、女子は本國に殘つて居りますから、女子の數が男子よりも多くなります。現に英國では三百萬も婦人の方が多いといふ實況であります。從て婦人の勢力が強い。又婦人が交際界に出まするに付て、利益もあり弊害も伴つて居るのであります。利益から申しますれば、見識を廣める事で、婦人が始終狹い家の内に閉ぢ籠つてゐるよりも、男子と共に社交に出ると、色々の話も聽き、見識を廣くする。其の代り又弊害が多く認められて居る。即ち華美を競ふの弊風が增長する。此の風の盛になると共に生活難を來し、同時に、人口の繁殖にも影響を及ぼして來る。又婦人が社交に出れば出るだけ家庭がさびれる、かやうなことを考へて見ますると、實に我邦の婦人が家庭經營に最も適當してゐることも知れ、我邦は却て幸であると感じられます、是は一つは結婚問題にも係があるのでありまして、西洋では御承知の通り結婚をしまするには、男女が互に自分の配偶を求めて結婚しなければならぬ爲めに、どうしても世間へ出て交りをしなければならぬ。又普通の女子で結婚しまする費用も作り上げねばならず、日用品は女の方から持つて行かなければならぬ。かやうな重荷がありまする爲めに餘程婦人が苦しいのであります。斯う云ふ點に於きましても、我邦の家族制は其困難を少くして居る。吾々は唯親と親とが話をして結婚をさせてくれるのであります。歐米の婦人は主として自分で働いて結婚をしなければならない。殊に男子の數が少ない英國の如き所に於ては、結婚が容易でないと云ふやうな譯でありまして、何角につけて我國の方が仕合せであるやうな感じが起りました。

さういふ譯で、女子の職業問題が我邦と歐米とは違つて居る。歐米の婦人は多く獨立生活をする。從つてそれに相應な職業を求めなければならぬ。我邦では別に獨立生活をやらなくてもよい。日本の女子敎育と云ふものは、良妻賢母を作るにあるのである。婦人の結婚を幸なことゝ歐米では言つて居りますが、我邦に於ては自然さう云ふことになつて居る。そこで婦人が學ぶべきことは、家庭の人となるの素養である。又家庭に這入りまして主人を助けて或場合には副業でも致すと云ふやうなことが非常に必要である。

さて其副業のお話でありますが、南洋を廻つて爪哇に參りました時、此の地方では副業が盛んである爲めに家庭が仕合せであることを見ました。即、更紗製造でありまして、是は爪哇の國產の一つである。婦人は家に於て更紗を作つて居るのである。之れがなか〳〵收入のあるもので、爪哇の家庭には貧富の懸隔が少ないといふことである。今一つは竹細工でありまして奇麗な竹がある爲に、其竹を細く切つて歐米の婦人の帽子を編んで、それを輸出して居るので是亦一種の副業を爲して居る。尤も最近では比律賓に於て米國政府が非常に實業敎育を獎勵しまする結果として段々竹細工が比律賓の方に移りつゝあるので、亞米利加も中々考へて居るものと思ひます。（つゞく）

愛國婦人第二百四十號附錄　發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　竹內貞三　發行所　東京麹町區飯田町　愛國婦人發行所　印刷所　東京市小石川區久堅町　博文館印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN